



Arts Council Shizuoka Annual report 2024

 アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA
アニュアルレポート2024
Annual report 2024



わたしと アーツカウンシルしずおか

Arts and me

西村真里子

株式会社 HEART CATCH 代表取締役
静岡県庁
TECH BEAT Shizuoka プロデューサー

私は、ビジネス、クリエイティブ、テクノロジーの領域を超えて、人や情報をつなぐ「ポリネーター（＝受粉媒介者）」として活動しています。静岡県にはフェローとして関わるとともに、プロデューサーを務める「TECH BEAT Shizuoka」を通じて、地元企業や自治体と、先進技術を持つスタートアップをつなげ、地域スタートアップの育成や、オープンイノベーションの推進に取り組んでいます。県民一人ひとりのクリエイティブ性に主眼を置く「T&B」の理念は、新規事業を目指すビジネスの現場と親和性が高く、静岡のイノベーション促進の重要なカギになると感じています。昨年は「TECH BEAT Shizuoka」に出演させていただきましたが、今後も連携を深めて一緒に静岡を盛り上げていきたいと思います。

Arts : アーツカウンシルしずおか (Arts council Shizuoka) © 齋藤

PROFILE 西村 真里子 (にしむら まりこ)

日本 IBM で IT エンジニアとしてキャリアをスタート。アドビシステムズ、パシフィックを経て 2014 年 (株) HEART CATCH 共同創業。ビジネス、クリエイティブ、テクノロジーをつなぐ“分野を越境するプロデューサー”として企業や自治体の新規事業案件の企画に多く携わる。日米のスタートアップに投資しグロース支援、オペレーション支援を実施。内閣府日本オープンイノベーション大賞専門委員会委員。Art Thinking Collective (仏パリ/ビジネススクール ESCP) インストラクター。武蔵野美術大学客員教授。

SPACの人々

静岡が世界に誇る静岡県舞台芸術センター(以下SPAC)の俳優や制作スタッフの中には、個々に活動を展開している方も多くいます。その一環で、助成事業への参加、マイクロアーツ・ワークショップ(MAW)の旅人相談窓口の利用など、Artsとの接点が生まれています。今年度関わりのあったみなさんに、Artsについてお話を聞きました。

PROFILE

ながいさやこ

コロナ禍を機に自分で劇団を始めましたが、広報や収益といった芝居以外の目線が自分には足りていないことを痛感しました。そこで客観的な立場で意見をいただきたくて、Artsの相談窓口足を運びました。これからは助成事業などを通して、積極的にArtsとの関わりを増やしていけたらと思います。

山崎皓司

僕は自分で一から企画して作品を作りたいという思いもあって活動拠点を東京から静岡に移したので、何かやりたかった時に、気軽に相談できる環境が整っているのは、すごくありがたいですね。僕自身は、地域振興に軸足を置いた事業であっても、尖ったアートもありだと思おうので、また自分でも企画してみたいです。

大内智美

私は去年初めてArtsの相談窓口に行きました。私はSPACとは別に自分の劇団チームを運営しており、もっと早く相談に行けば良かったと思いました。相談といても、アイデアを出し合う双方の関わりの中から、自分の発想に無かったことにトライする機会が生まれたら嬉しいですね。

棚川寛子

児童養護施設でのワークショップを企画した際には、相談窓口を通して企画内容について一緒に考えてもらったり、悩みを聞いてもらったりと、いろいろな力になっていただきました。SPACとしても、何か協力し合えたらいいなって、実はずっと前から思っています。

宮城嶋遥加

私は、Arts初年度の頃からお世話になっています。Artsには、企業の目線や行政の捉え方など、アーティストとして「これがやりたい」という視点だけでは見えてこない、客観的で、俯瞰的な視点を意見をいただけるのがすごくありがたいですね。これからも目から鱗な学びや新しい出会いを提供していただけたら嬉しいですね。

bable

私はArtsのマイクロ・アート・ワークショップや助成事業を通じて、2023年から牧之原の皆さんと継続的に関わる機会が生まれ、とても良い経験をさせていただきました。今後もArtsには「芸術文化」の枠組みを広げていただき、静岡の魅力発信する人たちを応援していただきたいですね。

加藤幸夫

僕が運営する「かとうゆきお」というスペースをArtsのイベント会場として使っていたことをきっかけに、相談窓口をよく利用させてもらいました。きっと僕たちのように助けが必要な人が沢山いると思いますので、もっと広くArtsの活動が知れ渡り、多くの人に支援の手が差し伸べられるといいと思います。



加藤幸夫 (かとう ゆきお)
舞台俳優。SPACを中心に様々な舞台作品に出演。舞台俳優の傍ら、学校や施設等で演劇的手法を用いた表現ワークショップを手がけている。愛称は「カトちゃん」。

nable (ペイブル)
静岡県出身。俳優・演出家として国内外で活躍。MAW2023 旅人、牧之原ゴミット演出。SPACには「人形の家」から参画、「メナム河の日本人」では山田長政役で初主演を務めた。

宮城嶋 遥加 (みやぎしま はるか)
静岡市出身。主な出演作に SPAC「ロミオとジュリエット」、フランスの馬術劇団「Lunar Comet」など。東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了。ワークショップ講師や演劇の手法を活用した企画のプロデュース等、様々な活動を展開している。

棚川 寛子 (たなかかわひろこ)
演劇作品の音楽を作曲し、俳優への演奏指導と併せて行うスタイルで活動。SPAC「マハーバーラタ」「アンティゴネ」他。その他、子どもから大人まで、演劇と音楽のワークショップやポータブル演劇「テーブルシアター」の活動などを続けている。

大内智美 (おおうち ともみ)
俳優。岩手県奥州市出身。富良野塾や劇団ク・ナウカを経て2007年よりSPACで活動。宮沢賢治作品や岩手の方言での朗読にも取り組んでいる。「お芝居デリバリー-まりまり」として被災地などでの上演も多数。

山崎 皓司 (やまざき こうじ)
1982年静岡県生まれ。俳優(FAIFAI所属)、山崎パラダイス代表。2019年から活動拠点を東京から地元掛川市に移し、農業、狩猟、養蜂などに取り組みつつ、世界平和への道を模索している。

ながいさやこ
俳優。2015年、クロード・レジ演出「室内」よりSPACに参加。近年では宮城嶋演出「イナバとナバホの白兔」「夜叉ヶ池」、多田淳之介演出「伊豆の踊子」などに出演。俳優のほか、広告のデザインや、公演の企画・演出も手がける。



田内浩之

湖西市長



ArTSは県議の頃から注目し応援していましたが、設立からわずか4年で一気にここまでの活動を展開されたことは想定外でした。期待以上の活躍にただ驚くばかりです。本来アートには、人と社会を繋ぐ力があり、人の可能性を広げる入口になってくれるものだと思います。私が子どもの頃、広い世界の窓を開いてくれたのも世界中のアーティストたちの画集でしたし、今でも文筆家の言葉に心動かされます。これまで湖西市では、新居と口須賀でArTSの助成事業を実施していますが、今後さらにこのような活動が各エリアに飛び火し、全ての人がアートをより身近に感じられるようになることを期待しています。

PROFILE 田内浩之（たないひろゆき）
2000年に遠州鉄道株式会社へ入社し、2009年に退社。その後、2011年に静岡県議会議員に就任。「ふじのくに県民クラブ」に所属し、幹事長、総務会長を歴任するとともに、文化・観光委員会や産業委員会の委員長を務めた。2024年10月に静岡県議会議員を辞職し、同年12月に湖西市長に就任。市長就任後は、市民の声を傾けながら、湖西市の自然や歴史、伝統文化を大切に、まちの魅力をさらに高めるための取り組みを進めている。これからも、市民とともに良い湖西市の未来を築いていくことを目指している。

アーツカウンシル
しずおか



今年度の

10
大
ニュース

6月 NPO法人こころのまま、
社会ボランティア賞受賞

アートを通じた障害児者支援に取り組むNPO法人こころのまま（NPO文化芸術による地域振興プログラム実施団体）が、国際ソロプチミスト駿河より、地域密着型のボランティア活動をたたえる「社会ボランティア賞」を贈られた。

7月 アーティスト、クリエイターを
対象とした静岡移住
相談会を初開催！

毎年2回東京交通会館で開催される「静岡まるごと移住フェア（主催：静岡県、ふじのくに住みかえ推進本部）」に出展。4度目の出展にして初めて、移住や二拠点活動を視野に入れるアーティストやクリエイター向けに発信し、中間支援の立場から相談に応じた。



▲先輩移住アーティストの戸井田雄氏（写真中央・熱海在住）をゲスト相談員に迎えた

9月 「fresh air」日本経済新聞
月に取り上げられる

アートによる空き家活用パイロット事業 fresh air (p.44) が、9/11 付け日本経済新聞・東京面の記事「街の魅力、アートで彩る」に登場。社会課題の解決と地域振興を両立させるユニークな取り組みとして、東京都目黒区、佐賀県多久市の民間事例と並び紹介された。

9月 令和6年度第2回
ACネットワーク
ミーティング、
静岡で開催

全国のアーツカウンシルをつなぐアーツカウンシル・ネットワークミーティングを静岡に誘致。9/30、全国各地の関係者がグラウンディングし、アーツカウンシルの役割について考察を深めた。（詳しくはp.49）

12月 CPD チーフプログラマー 榎野展正、『AERA』の
「2025年をリードする100人」に
選ばれる

AERA (2024年12月・2025年1月合併号) の巻頭特集「各分野の第一人者が選ぶ2025年注目の人」において、ArtS チーフプログラム・ディレクター榎野展正が、福祉・社会貢献分野の一人に選ばれた。選者は日本財団公益事業部シニアオフィサー・竹村利道氏。アウトサイダーアートのキュレーターとしての活動を通して、障害者が自ら考える機会をつくり可能性を広げている点を評価された。

2025年
2月

その助成事業「文化芸術による地域振興プログラム」の成果報告会を、2/9に浜松で開催（p.26）。今年度実施団体の面々をはじめ、行政、県内文化団体関係者が集い、参加者は過去最多の95名！関心を寄せていただきありがとうございます。2025年度は沼津で開催予定。どなたでも見学自由です。

2月 藤枝・白子商店街の天狗
行列、14年ぶりの復活！



「藤枝ノ演劇祭」を手がける、藤枝宿世代をつなぐ商店街づくり実行委員会（2020・文化芸術による地域振興プログラム実施団体）の働きかけにより、かつて地元商店街の名物行事として住民に愛された「白子天狗まつり」の「天狗行列」が14年の時を超え復活。2/15、商店街と蓮華寺池公園を天狗たちが練り歩き、地元を大いに沸かせた。

2月 静岡県行政経営
研究会を
コーディネート

文化政策課が県内の市町行政職員に向けて開催する研究会を、このたびがコーディネートした。天竜一俣（浜松市）のまちづくりのキーマンである中谷明史氏をゲストに迎え、レクチャー、ディスカッションを3時間行った。



ビジネス分野との連携深まる

「TECH BEAT Shizuoka2024」及び関連イベントへの参画（p.48）等を通して、今年度はビジネス分野との繋がり、関わりがより濃くなった。

もくじ

- 01 わたしとアーツカウンシルしずおか
 - 西村 真里子
 - SPAC の人々
 - 田内 浩之
- 06 アーツカウンシルしずおか 今年度の10大ニュース
- 07 もくじ
- 08 SUMMARY | 2024 年度（令和6年度）アーツカウンシルしずおか事業概要
- 10 文化芸術による地域振興プログラム
- 12 — 活動写真
- 16 column 1 「特定のテーマに軸足を置いた住民プロデューサー」 福田勝彦、松澤圭子
- 17 地域クリエイティブ支援
 - 26 — 2024 年度成果報告会レポート
- 27 地域はじまり支援
 - 35 文化芸術専門協働事業助成・文化芸術活動広報支援助成
- 36 PD (プロジェクト)・PC (プロジェクト) 座談会／アートプロジェクトとは何か？
- 40 マイクロ・アート・ワーケーション (MAW)
 - 43 column 2 「MAWってなんだ？」 古谷晃一郎、今井しほか
- 44 アートによる空き家活用パイロット事業 fresh air
- 48 REPORT
 - TECH BEAT Shizuoka2024
 - アーツカウンシル・ネットワークミーティング
- 50 その他の取り組み
 - 調査研究（高齢者施設における超老芸術作品を通じた対話型鑑賞と絵画制作ワークショップ、高齢者による表現活動の実態調査）
 - 調査研究（文化政策投資効果調査、アーティスト等の活動環境調査）
 - クリエイティブ人材派遣制度
 - アートプロジェクトのつくり方「きかくの場」
 - 超老芸術
 - 相談窓口
 - [出張相談窓口] ArtS オープントーク、出張 ArtS
- 57 LIST OF APPEARANCE | 専門スタッフ出演・登壇リスト
- 58 アニュアルレポート2024 に添えて「静岡茶のブランド戦略とアートプロジェクト」 加藤種男
- 60 SUPPLEMENT | 付録
- 62 PROMOTION | 広報

2024年度ふりかえり

アーツカウンシルしずおかは、文化芸術が人々の創造性を引き出し、まちづくりや観光、福祉、教育、環境、産業など様々な分野の課題解決や資源活用の糸口となり、その地域社会が活性化することを目標としている。2024年度は、住民主体のアートプロジェクト促進と、プロジェクト間ネットワークの確立が進んだが、アーツカウンシルしずおかの活動や役割の認知度をさらに高める必要がある。

住民主体のアートプロジェクト支援

県内で住民主体のアートプロジェクトが生み出され、プロジェクト同士の交流や連携を通じてネットワークが広がった。

● 助成事業 文化芸術による地域振興プログラム、文化芸術による地域振興事業費助成金

「文化芸術による地域振興プログラム」では 108 件の応募から 29 件を採択し、地域に根ざした文化芸術活動を支援した。住民主体の企画によるプロジェクトが増加し、継続的な動きが見られる。

また、「東アジア文化都市 2023 静岡県」を契機に広がった活動のうち、地域住民が参画する要素を持ち、将来的に「文化芸術による地域振興プログラム」につながり得る事業に対し、「文化芸術専門協働事業助成」(14 件)と「文化芸術広報支援助成」(12 件)での支援を実施した。そのうち数件から 2025 年度の地域振興プログラムへ応募があった。

● マイクロ・アート・ワーケーション

県内のホストとアーティストとの交流から新たなプロジェクトが誕生し、地域活性化や住民プロデューサーの発掘につながっている。

● きかくの場

県内の住民プロデューサーを訪問し、アートプロジェクトの展開方法や継続性確保に関する研修を実施した。受講生の中から新たな企画が生まれてくることを期待している。

コーディネート

● 相談窓口、出張相談窓口

グランシップでの常設相談窓口に加え、各地での「ArtS オープントーク」や「出張 ArtS」を通じて、地域の文化芸術活動を支える支援体制を強化した。相談者の中から新たなアートプロジェクトが立ち上がるなど、アートによる地域振興は更に活性化していると言える。

● クリエイティブ人材派遣制度

企業、自治体、地域団体に対して、アーティストなどをマッチングし、3 団体に計 5 名を派遣した。障害福祉、観光など、多分野で創造的な視点が導入され、課題解決や地域資源の再発見が進んでいる。

調査研究・政策提言

今年度は 4 つの調査研究を実施した。また、専門的な知見を活かし、静岡県総合計画審議会や静岡県文化政策審議会に委員として参画するなど、政策に対する助言などを行った。

● アートによる空き家活用パイロット事業 fresh air

2023 年度に引き続きアーティストの視点を取り入れた空き家利活用の可能性を検証した。2025 年度はその検証結果をもとに、空き家を活用したまちづくりに携わる事業者向けガイドラインの作成に着手する。

● 高齢者施設における超老芸術作品を通じた対話型鑑賞と絵画制作ワークショップ、高齢者による表現活動の実態調査

文化芸術が高齢者の生活や社会参加に与えるポジティブな影響を確認した。調査成果をもとに、2025 年度に政策提言書をまとめる。

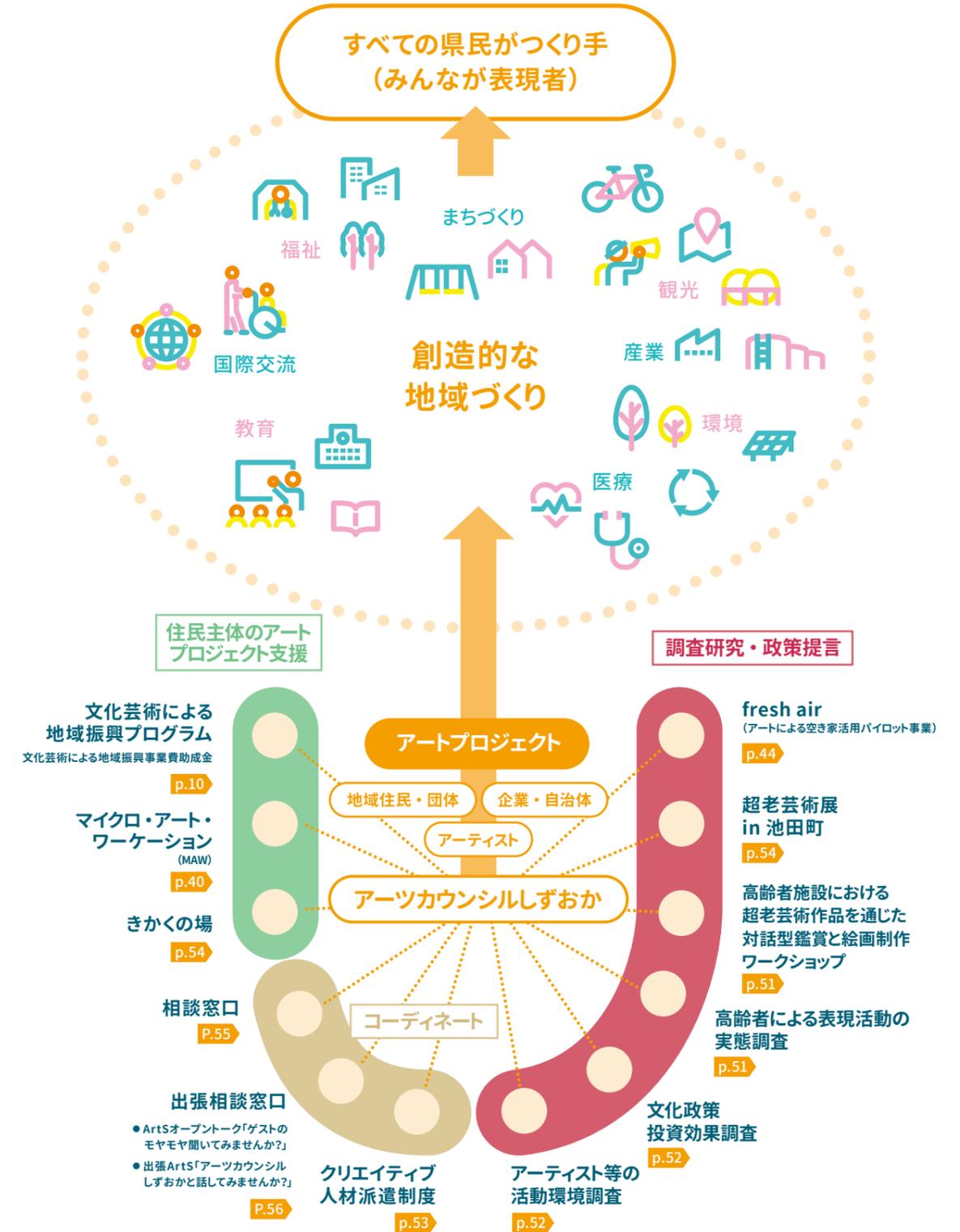
● 文化政策投資効果調査

県立美術館や SPAC、県文化財団を対象として、文化施策が地域に与えた影響を検証した。この結果をもとに、更なる考察を進める。

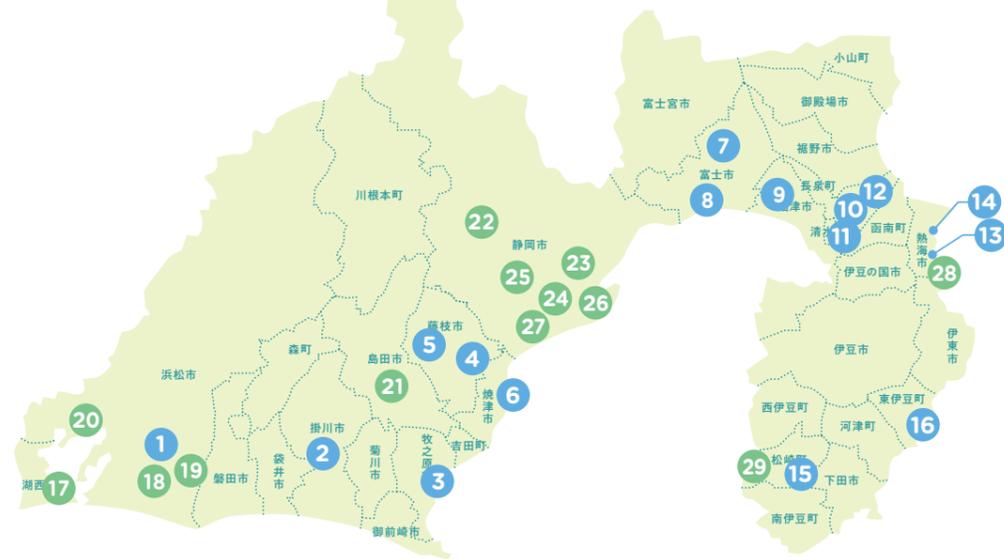
● アーティスト等の活動環境調査

県内アーティストやアートマネージャーなどを対象とした調査を実施し、移住促進や分野横断的な連携強化に向けた課題や可能性を把握した。調査結果はアーツカウンシル事業や文化振興に係る提言などに活用するとともに、2025 年 5 月より ArtS ウェブサイトで公開している。

2024 年度 (令和 6 年度) アーツカウンシルしずおか事業概要



2024年度実施団体の活動拠点



地域クリエイティブ支援 (16件)

他地域や当該分野のモデルとなる先駆的なアートプロジェクト(助成金額上限 500万円)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1 認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ | 9 NPO 法人こころのまま |
| 2 かけがわ茶エンナーレ実行委員会 | 10 しゃざりフェスティバル実行委員会 |
| 3 海と山の文化市実行委員会 | 11 三島アートプロジェクト実行委員会 |
| 4 藤枝宿世代をつなぐ商店街づくり実行委員会 | 12 Lab Qrio |
| 5 竹部 (バンブ) | 13 一般社団法人熱海怪獣映画祭 |
| 6 一般社団法人トリナス | 14 熱海未来音楽祭 |
| 7 吉原中央カルチャーセンター | 15 松崎まちかど花飾り実行委員会 |
| 8 富士の山ビエンナーレ実行委員会 | 16 合同会社 so-an |

地域はじまり支援 (13件)

アートプロジェクトの実施に向けた試行的な取組(助成金額上限 30万円)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 17 NPO 法人新居まちネット | 24 HAHAHANO.LABO |
| 18 つくるぞうのへや | 25 株式会社小学館集英社プロダクション |
| 19 演劇ユニット FOX WORKS | 26 三保海浜マラソン実行委員会 |
| 20 UBUBU | 27 一般財団法人静岡市国際交流協会 |
| 21 伊久美茶話クラブ NEO | 28 熱海メモリーズ |
| 22 NPO 法人静岡あたらしい学校 | 29 松崎ふるさと絵屏風研究会 |
| 23 cocore | |

※西部、中部、東部の順で並んでいます

キックオフ ミーティング

日時/2024年7月2日(火)
会場/グランシップ
6F交流ホール



成果報告会

日時/2025年2月9日(日)
会場/アクトシティ浜松
コンgresセンター



(※詳細はp.26)

(撮影:近藤ゆきえ)



ArtS for Regional
Development
subsidy

2024年度

文化芸術による

地域振興プログラム

アーツカウンシルしずおかでは、地域資源の活用や社会課題にアプローチする先駆的なアートプロジェクトを公募により選定し、支援を行っている。2024年度は、まちづくり、観光、福祉、教育、産業、文化芸術など多様な分野において活動する団体による29件のプロジェクトが採択された。

本事業では、各プロジェクトに対し経費の一部を助成するとともに、アートマネジメント分野の専門人材(プログラム・ディレクターおよびコーディネーター)により、個別のニーズに応じた助言や伴走支援を提供した。

6 静岡わかもの新聞 アートを通じたこども・若者の社会表現と発信プロジェクト（一般社団法人トリナス）



7 HELLO YOSHIWARA 2024 ~吉原商店街の記憶を演じよう~（吉原中央カルチャーセンター）



8 富士の山ビエンナーレ 2024 in エキキタ（富士の山ビエンナーレ実行委員会）



9 心のままアートプロジェクト（NPO 法人こころのまま）



10 地域コミュニティ活性化に向けた伝統芸能活用プロジェクト（しゃぎりフェスティバル実行委員会）



11 三島満願芸術祭 2024（三島アートプロジェクト実行委員会）



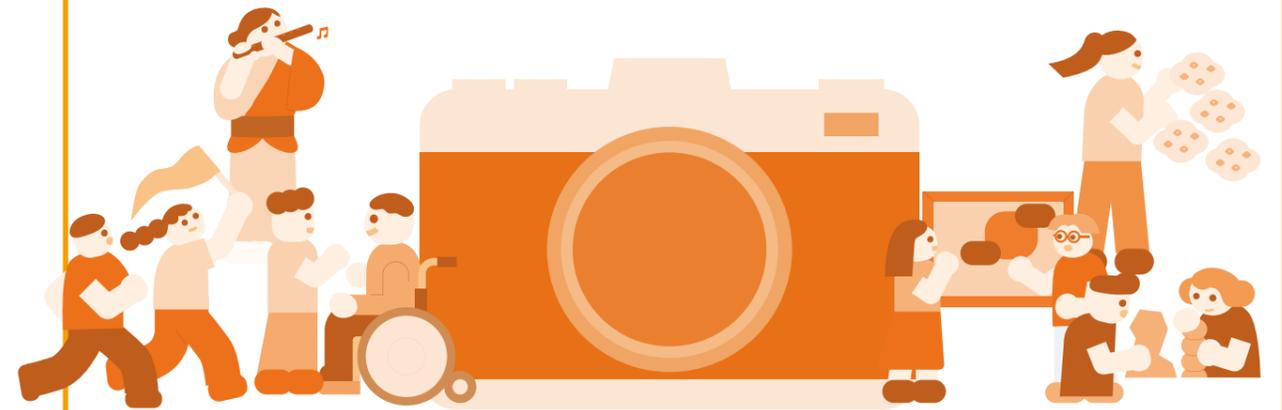
12 三島広小路笑栄通り商店街アートサイクルの試み（Lab Qrio）



13 第7回熱海怪獣映画祭（一般社団法人熱海怪獣映画祭）



2024年度 文化芸術による地域振興プログラム 活動写真



1 異文化交流「凸凹まつり」
~共同制作で繋がる新しいコミュニティ~（認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ）



2 かけがわ茶エンナーレ 2024（かけがわ茶エンナーレ実行委員会）



3 牧之原盆フェス開催！~牧之原ゴミット 2024~（海と山の文化市実行委員会）



4 藤枝ノ演劇祭 4（藤枝宿世代をつなぐ商店街づくり実行委員会）



5 竹林劇場プロジェクト「交差するヒト、モノ、コト」（竹部）



22 あるもんで演劇 演劇×オルタナティブ教育×オクスズ (NPO 法人 静岡あたららしい学校)



23 これすご！プロジェクト～福祉分野に表現活動の価値を浸透させるプロジェクト～ (cocore)



24 『クビ』か『ウチクビ』か (HAHAHANO.LABO)



25 ART FROM プロジェクト (株式会社 小学館集英社プロダクション)



26 第3回三保海浜マラソン (三保海浜マラソン実行委員会)



27 夏休みインクルーシブ子どもシアター (一般財団法人 静岡市国際交流協会)



28 音楽の力で認知症予防—地域共生社会の実現に向けて— (熱海メモリーズ)



29 松崎町ふるさと絵屏風プロジェクト (松崎ふるさと絵屏風研究会)



14 第6回熱海未来音楽祭 (熱海未来音楽祭)



15 松崎まちかど花飾り (松崎まちかど花飾り実行委員会)



16 イナトリアートセンター計画 (合同会社 so-an)



17 共生の為のアートプロジェクト
～地域交流・信頼関係構築を目指して～ (NPO 法人新居まちネット)



18 デモクラティックスクールび～だどつくる人々 (つくるぞうのへや)



19 浜名湖ぐるりめぐるクリエイションツアー (演劇ユニット FOX WORKS)



20 みかんの里より15の春プロジェクト (UBUBU)



21 オペレッタ会議～伊久美小オペレッタの継承と発展を考える会～ (伊久美茶話クラブ NEO)





地域 クリエイティブ 支援

CREATIVE
CATEGORY

特定のテーマに軸足を置いた 「住民プロデューサー」

ASOでは、地域で展開されるアートプロジェクトの運営において、アーティストと地域住民との橋渡しを担い、事業を推進する存在を重視しており、そのような役割を果たす人材を「住民プロデューサー」と位置付けています。「住民プロデューサー」は、プロジェクトが実施される地域、またはその周辺に居住または勤務しており、そこで得た人脈や地域情報を活用しながらアートプロジェクトを推進します。地域住民や各種団体を巻き込みつつ、プロジェクトの成果が地域に波及するよう、その道筋を描いていくことが求められます。ここでは、特定のテーマを掲げた「住民プロデューサー」たちがどのように活動しているかを紹介します。

“しゃぎり”の継承は 外との交わりから

私たち「しゃぎりフェスティバル実行委員会」は、三島市の伝統芸能である三島囃子のうちのひとつ、江戸時代からある祭り囃子「しゃぎり」の永続的な発展のため、また、その発展に向けた動きが地域活性化につながるのではないかと考え、さまざまな活動を行っています。毎年9月に開催している「しゃぎりフェスティバル」はその活動のうちの一つです。

もともとのきっかけは東日本大震災後、南三陸町の復興支援イベントで行った「しゃぎり」演奏でした。「しゃぎり」を仮設商店街で演奏したところ、被災した方々が口々に「元気が出る」と喜んでくれたのです。私たちにあって「しゃぎり」はお祭りやセットであることが当たり前で、単独で成り立つなんて思ったことはありませんでしたが、特に若いメンバーが感銘を受けている姿を見て、「しゃぎりフェスティバル実行委員会」の立ち上げにつながっていきました。

ここ2年ほどは、伝統芸能の有識者を交え活動を整理したり、伝統芸能継承活動として大きな視点で見直したりしながら、私たちの取り組みや考え方を伝統芸能継承活動のひとつのモデルとして発信できないか試行錯誤しています。伝統芸能の担い手不足の話は全国で聞かれますし、地域コミュニティの衰退との関係も深いと考えています。私たちもまだまだ摸索中ですが、地域内の複数の課題を横断して捉える「しゃぎりフェスティバル実行委員会」の活動が、同様の課題を抱えた他の市町の方々の参考になればと考え、活動するだけでなく、内容を整理し伝達することも心掛けています。



福田勝彦

しゃぎりフェスティバル
実行委員会 代表

三島市生まれ。しゃぎりフェスティバル実行委員会代表、芝町青年会事務局長。小学4年生より「しゃぎり」に携わり現在に至る。会社員の傍ら、しゃぎりの普及、啓蒙活動を行っている。2016年東日本大震災の復興支援で、三島の祭り囃子「しゃぎり」を現地で演奏。現地の人から「元気が出る」と大変喜ばれたことで「しゃぎり」の力に気づき、翌年、祭りのBGMだった「しゃぎり」にあえて焦点をあてたイベント「しゃぎりフェスティバル」を開催。その翌年実行委員会化。現在も実行委員会を通じて「しゃぎり」を未来に届けるための活動を牽引中。

竹のポテンシャルが引き出す創造性

「竹林劇場プロジェクト」というアートプロジェクトは、ギタリストの原大介さんからの電話から始まりました。原さんの「竹林でダンス公演をしたい」という言葉に最初はとても驚きましたが、その思いに刺激され、竹林が舞台になる光景を想像してワクワクしたことで、竹のスペシャリストである私たちの中でもプロジェクトが始動しました。

プロジェクトでは、藤枝市谷稲葉にある竹林を地域の方々と一緒に整備し、イベント会場を作り上げ「竹林劇場」と名付けました。ダンス公演をきっかけにプロジェクトとして場所を整備しましたが、他団体の利用も出てきて、それまで所有者や近隣の方々しか入らなかった竹林が開かれていきました。また、整備に関わった方々が自ら率先して、いろいろな作業を進めたり、竹の活用方法を考え実践したりする様子を見て、竹の持つポテンシャルを感じています。竹林では毎年新しい竹が伸びるので、会場として使う人たちがそれぞれのやりたいことに応じて、伐採したり、残したりする自由度があって、毎回違った顔になるのも「竹林劇場」の特徴だと言えます。

2年目となる2024年度からは私たちがプロジェクトを主催し、県内の竹林団体とのネットワークを強め、竹林という場所を開く取り組みを紹介しました。竹部（バンブ）は竹にまつわるいろいろな活動を行っていますが、竹そのものの活用だけでなく、竹林を場所として活用していく取り組みも、地域ごとの特徴を反映した形で展開されてほしいと思っています。



松澤圭子

竹部代表

2019年から竹好きが集まる任意団体「竹部（バンブ）」を主催している。会員は約30名。竹細工、竹灯籠、竹楽器、竹林整備、メンマ作りなどのチームが緩く繋がっている。整備した竹林を「竹林劇場」と名付けて開放し、様々なイベントを開催している。自身は2年前に個人事業主として開業、メンマとジビエを使ったレトルト食品の「おもいのたけ」を総発販売中、竹を事業化して放置竹林を減らすことをいつも妄想（孟宗）している。

地域クリエイティブ支援

2 かけがわ茶エンナーレ 2024

団体名: かけがわ茶エンナーレ実行委員会 | 地域: 掛川市



文化芸術・市民活動・地域を「茶縁」で結ぶ地域芸術祭。市にゆかりのある6名のプロジェクトリーダーが、プロセスにも重きを置いた企画を展開。会期中も「お茶を通じた気軽な参加機会」を散りばめ、関係性を深めながら、市民が様々な形で出会う場を創出するなど、会期終了後も見据えた「協働のまちづくり芸術祭」とも言える取り組み。

『かけがわ茶エンナーレ 2024』

実施日程: 2024年11/2～11/17
 会場: 大日本報徳社、掛川城、掛川市生涯学習センター、掛川市美感ホール、掛川文化会館シオーネ、東山茶業組合 茶工場、連雀ニューセンタービル、the Port kakegawa、西郷ファーム、天然寺、未来創造プロジェクト通年常設展示発信会場(掛川市倉真)他

関係者数: (延べ) 1,087人
 各分野プロジェクトリーダー、公募アーティスト、かけがわ街づくり株式会社、掛川茶振興協会、掛川市文化財団 等

これからも文化による協働のまちづくりを進めていきます!

久保田 崇さん



対象: 地域資源の活用や社会課題への対応を目指す先駆的なアートプロジェクト

助成金額上限: 500万円

助成率: 助成対象経費の3/4以内、または1/2以内 ※団体区分による

0 実施プログラム

団体名: ○○○○○○○○○ | 地域: ○市(町)



『○○○○○○○○』
 【実施日程】○年○/○-○/○
 【会場】○○○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○

関係者数 / (延べ) ○人
 ○○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○

団体代表者コメント ○○○○○○
 ○○○○○○

○○○さん

2024年度事業の中で実施した主なイベント等の概要

イベント来場者数ではなく、団体構成員はじめ事業の企画運営に関わった人数を示す

3 牧之原盆フェス開催! ~牧之原ゴミット 2024 ~

団体名: 海と山の文化市実行委員会 | 地域: 牧之原市



地域課題である「海岸清掃におけるゴミ処理問題」に焦点をあて、牧之原を愛するアーティストやクリエイターと協働し開催したプロジェクト。静波海岸のクリーン活動やゴミの分別、複数回にわたる参加型イベントを通じて、地元住民がゴミ問題を共通の課題として認識することや、地元住民、企業、団体間の交流をより深めていくことを目指した。

『牧之原ゴミット 2024』

実施日程: 2024年5/18, 7/15, 10/26, 12/7
 会場: 静波海岸、一如、接続の森、凸凹広場

関係者数: (延べ) 71人
 山中カメラ(現代音頭作曲家)、bale(演出家)、西亀康宏(福山まるごと推進委員会)、愛音-meoto-(パフォーマー)、ARTnaaty(絵描き)、榛南青年会議所、デイサービストマト崇高、ダンススタジオ ROOT-K、まきのはらジュニアズアクション、まきのはら活性化センター、静岡県立榛原高等学校、牧之原市 等

ヒト、コト、モノを通して人と人のつながりを強くすることで、持続可能な出来事を起こしていきます!

尾崎 千里さん



1 異文化交流「凸凹まつり」~共同制作で繋がる新しいコミュニティ~

団体名: 認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ | 地域: 浜松市



地域住民や地元アーティストをはじめ多様な人々が思いを共にする凸凹まつりを浜松市中心部で開催。地域内の事業者や団体なども巻き込み、巨大な張り子のみこしづくりや、ワークショップ企画などの関り口を用意し、様々な既存コミュニティが出会い、混ざり合い、さらに発展した新しいコミュニティの形成を目指すプロジェクト。

- 『夏の終わりの秘密基地! ~みんなでつくる凸デコづくり~』
 実施日程: 2024年8/26～9/20
 会場: ちまた公民館
- 『お祭りごっこ!! みんなでつくる凸凹祭り 2024』
 実施日程: 2024年9/21
 会場: 新川モール(遠州鉄道「第一通り駅」高架下南側)

関係者数: (延べ) 60人
 遠州天狗屋、FabLab 浜松、アサギマダラスポーツマネージメント、ラウラ・ロドリゲス、浜松盆部、DJ Nagajilow、DJ okunoyama (MAYA)、浜松科学館みらいーら有志、プスプス byZING、(公財) 浜松国際交流協会 (HICE)、JICA 浜松デスク、株式会社 HACK、NU-TRIA skatepark、ONEGAME 浜松等

これからもわくわく楽しく繋がりを広げたい!

竹内 聡さん



6 静岡わかもの新聞 アートを通じたこども・若者の社会表現と発信プロジェクト

団体名：一般社団法人トリナス | 地域：焼津市



焼津駅前通り商店街にある「みんなの公民館まる」を拠点に、中高大生を中心としたこども・若者の自己発信や自己表現の場として、メディア「まるまる新聞」を立ち上げた。記事作成のための取材や自分を表現するワークショップ、大人たちとの対話を通じて、こども・若者が自ら地域社会に声を届ける機会をつくることを目指した。

● 焼津高校との連携ワークショップ『さかさまクラス』

実施日程：2024年10/28, 11/30, 12/26, 12/28,
2025年1/11, 1/18
会場：みんなの公民館まる

👤 関係者数：(延べ) 110人

永楠あゆ美(俳優)、長谷川直紀(俳優)、松薫学園焼津高校、焼津高校教職員、焼津市民、保護者、大学生等

静岡のこども・若者の表現がさらに広がっていくように！



土肥 潤也さん

4 藤枝ノ演劇祭4

団体名：藤枝宿世代をつなぐ商店街づくり実行委員会 | 地域：藤枝市



藤枝市の旧市街地商店街エリアを舞台にした演劇祭。茶工場跡や寺、公会堂などを劇場に見立て、来場者は周遊しながらまちの魅力を再発見していく。約40名の実行委員や劇団、地元学生、商店街の人たちの協働により、地域活性化に繋がることを目指している。4年目の今回は演劇祭プレ企画として、かつてこの地域で開催されていた「白子天狗まつり」の名物「天狗行列」を14年ぶりに復活させたことでも注目を集めた。

● 『藤枝ノ演劇祭4』

実施日程：2025年3/1～3/2
会場：ひつじノ劇場、ひとことカフェ、大慶寺、栄会館、藤枝市生涯学習センター、蓮華寺公園、白子会館、旧東海道藤枝宿商店街周辺

👤 関係者数：(延べ) 102人

劇団ユニークポイント、小菅紘史(俳優)、中川裕貴(音楽家)、アートひかり、清水宏(コメディアン)、石村勇二(俳優)、地元高校生、藤枝市地域おこし協力隊、白子名店街、藤枝市等

演劇祭がつけた地域との関係を、さらに充実したものに！



山田 裕幸さん

7 HELLO YOSHIWARA2024 ～吉原商店街の記憶を演じよう～

団体名：吉原中央カルチャーセンター | 地域：富士市



吉原商店街の店主が創作した短編小説をベースに、地域内外の人々が自らの思い出や体験を重ね合わせたラジオドラマを制作し、地域のラジオ局で放送した。地域住民の発想を具現化・発信しながら、吉原商店街の場所や体験にまつわる記憶の可視化を行うことで、潜在する「表現者」と「(地域への)愛着」を発掘した。

● 『あの頃あの場所を語ろう会 #0～2』

実施日程：2024年5/22, 6/20, 6/26
会場：創作酒肴 雪月花、色男とチャイコ、Bird old pizza house

● 『台本をとりあえず読む会』と公開収録

実施日程：2024年8/23, 8/24, 9/15
会場：14 Guest House Mt.Fuji 2階、world football bar KICKERS

● 都築響一・トーク及び吉原まち歩き

実施日程：2024年7/6(トーク), 7/7(まち歩き)
会場：虹いろーどホール(トーク)

👤 関係者数：(延べ) 37人

都築響一(ジャーナリスト/編集者)、渡辺喜子(映画監督/俳優)、加藤剛史(劇作家/演出家)、志村翼(音楽制作)、中嶋潤美(動画制作)、吉原商店街の店主、吉原商店街振興組合等

個人にねむる表現の種と土地の魅力の交差点でありたい



瀧瀬 彩恵さん

5 竹林劇場プロジェクト「交差するヒト、モノ、コト」

団体名：竹部(バンブ) | 地域：藤枝市



2022年に立ち上がり、藤枝市谷稲葉の「竹林劇場」を中心に展開しているプロジェクト。県内各地で竹林に携わる団体との交流を通して、竹林整備と地域づくりを掛け合わせた活用のモデルケースとしてこのプロジェクトを提示することで、竹林の活用を触発し、各地域の竹林において独自の展開が生まれ、広がっていくことを期待している。

● 蓮華寺池公園竹ジャック『交差するヒト、モノ、コト』

実施日程：2024年6/1～6/9
会場：竹林劇場、とんがりぼう(旧藤枝製茶貿易商館)、藤枝市蓮華寺池ギャラリーhygge、楽創倶楽部、蓮華寺池公園

👤 関係者数：(延べ) 164人

原大介(ギタリスト)、和田優也(竹細工職人)、望月ともひさ(竹灯籠職人)、HIRO(ギタリスト)、楽創倶楽部、鈴木絵里(デザイナー)、竹楽団、県内竹林整備団体、松本健作(おかんじゃけ)、一般社団法人SACLABO(会場)、株式会社藤興(電気)、ふじのくにNPO活動支援センター等

「竹林に集う」竹林劇場増殖計画もくろんでいます



松澤 圭子さん

10 地域コミュニティ活性化に向けた伝統芸能活用プロジェクト

団体名: しゃぎりフェスティバル実行委員会 | 地域: 三島市



『しゃぎりフェスティバル 2024』

実施日程: 2024年9/16
会場: 三島市立公園楽寿園

しゃぎり体験ツアー

実施日程: 2024年5/25, 6/22, 7/10, 7/25

関係者数: (延べ) 228人

大國魂神社大和舞伝承会、上高久じゃんがら保存会、(株)シタテ、三嶋大社、こどもローカルマガジン みしまんま、生活介護事業所おんすいち、三島市、三島市観光協会、しゃぎり保存会等

しゃぎりを未来へ届けるために
柔軟な発想で活動します!



福田 勝彦さん

江戸時代が発祥とされ、箱根の麓の東海道三島宿で東西の文化が入り混じり発展したとされる三島の祭り囃子「しゃぎり」。その「しゃぎり」を地域活動と結びつけることで、様々な分野での新たな伝統芸能の活用方法の発見を促し、地域振興と連動した伝統芸能継承活動のモデル化を目指すプロジェクト。今年度は福島県いわき市の郷土芸能保存会と連携し、現地でのコラボ演奏に加え、継承に関する今後の姿について議論した。

8 富士の山ビエンナーレ 2024 in エキキタ

団体名: 富士の山ビエンナーレ実行委員会 | 地域: 富士市



『富士の山ビエンナーレ 2024 in エキキタ』

実施日程: 2024年11/2～12/22
※第一展示会場は11/23～12/8

会場: 第一展示会場(富士駅北口前解体予定ビル群)、第二展示会場(小林本陣常盤邸、富士川民族資料館、光福山新豊院)

関係者数: (延べ) 58人

参加アーティスト(井上尚子、坪谷彩子、大輪龍志、中島崇、小林正樹、中島麦、清水玲、原倫太郎、菅隆紀、吉野祥太郎、西島雄志、山形敦子)、富士駅北口第一地区市街地再開発組合、富士市、富士市教育委員会等

夢の実現へ!富士の麓が
アートで彩る街になる



谷津倉 龍三さん

昭和期の面影を残す富士駅北口の再開発ビル群等を会場に、「記録と記憶そして物語へ」をテーマに作品を展示。また、地域住民や関係者が街の記憶を介して交流する井戸端会議室を設置。予見されるコミュニティの変化に対してアートプロジェクトの視点から関わり、地域づくりに繋がった。

11 三島満願芸術祭 2024

団体名: 三島アートプロジェクト実行委員会 | 地域: 三島市



『三島満願芸術祭 2024』及び関連イベント、ワークショップ

実施日程: 2024年11/2～12/1(金土日祝のみ)
会場: 浅間神社、カフェラペー、via701、源兵衛川沿い、陸泉苑、CoDou みしま、みしま未来研究所、CROSS MISHIMA

関係者数: (延べ) 180人

小林万里子(テキスタイルアーティスト)、水戸部春菜(美術家)、Canis Lupus Familiaris(アーティスト)、青木彬(インディペンデント・キュレーター)、佐野美術館、三島市、三島市観光協会等

関わる全ての人の願いが
満ちる芸術祭を三島に!



山森 達也さん

関係人口創出を目的として2023年に始まった、まちをひらく芸術祭。関連イベントや周辺情報提供、モデルコースの提示など、来場者がまちと出会う仕掛けが随所に用意されていることが特徴。また、移住者と地域のコミュニケーション促進を狙い、6つのチームに分けた自律型の運営や、トークンの発行といった仕掛けに多くのアイデアが含まれている。

9 心のままアートプロジェクト

団体名: NPO 法人こころのまま | 地域: 沼津市



『心のままアートワークショップ』

実施日程: 2024年7/13, 8/1, 8/20, 9/16, 10/27
会場: サンウェルぬまづ、沼津市立千本小学校

『心のままアート展』

実施日程: 2024年11/2～12/31
会場: 沼津コート、cafe/day、EART DINER、サンウェルぬまづ、田方農業高等学校

『相談室～困りごとをみんなで考える寄合所～』

実施日程: 2024年7/19, 9/6, 12/13
会場: cafe/day

関係者数: (延べ) 910人

中津川浩章(美術家/アートディレクター)、星野概念(精神科医/ミュージシャン)、田方農業高等学校ライフデザイン科セラピーコース、沼津西高等学校美術部、協賛企業等

アートワークショップ・展覧会・
相談室を自走型で継続します!



沼田 潤さん

障害を抱える人と同年代の高校生が共同するアートワークショップや展覧会を通じて、多くの人たちが障害を抱える人との交流体験を重ねることで、障害理解の促進や共生社会の実現を目指すプロジェクト。また、障害特性や子育ての悩みを語り合う相談室では、異なる世代の保護者同士の対話を通じて、新たな繋がりが生まれている。

14 第6回熱海未来音楽祭

団体名：熱海未来音楽祭 | 地域：熱海市



ジャンルに当てはまらない、どこの国のものかわからない、でも何か魅力を感じる、心に残ってしまう、非常に親密でかつ未来を拓く力を持つ音楽祭を、日本を代表する歴史ある温泉観光地、熱海で開催。「熱海未来音楽祭」の実施のみならず、多様な活動に繋げるべく、熱海で活動している文化団体のネットワークづくりに取り組んだ。

『第6回熱海未来音楽祭』

実施日程：2024年8/8, 9/29, 10/12～10/14
会場：起雲閣音楽サロン、EOMO store、サンビーチ、熱海魚市場、未来創造部レンタルスペースほか

関係者数：(延べ) 268人

巻上公一(音楽家)、井上誠(音楽家)、松武秀樹(作曲家)、梅津和時(音楽家)、テイラー・ミニオン(編集者)、高瀬アキ(Pf.)、佐藤正治(Perc.)、長峰麻貴(舞台美術家)、sanbaka horns、伊藤千枝子(ダンサー/振付家)、ほか出演アーティスト、NPO法人LAND FES、熱海芸術祭2024実行委員会、熱海カーニバル等

これからも熱海の魅力をアートにより再発見していきます！



巻上 公一さん

12 三島広小路笑栄通り商店街アートサイクルの試み

団体名：Lab Qrio (ラボキュリオ) | 地域：三島市



三島市内の旧東海道筋にある商店街を舞台に、こどもとアートの視点で交流や循環を生み出すプロジェクト「アートサイクル」。地域の中から掘り起こした廃材や記憶などを素材に、こどもから大人まで様々な交流から生まれた作品がまちを彩った。市民一人ひとりが、まちを“こどもとアート”の視点で見直し、まちを楽しむきっかけをつくった。

『笑栄通り・六反田アートサイクル・フェス』

実施日程：2024年8/5～10/20
会場：笑栄通り商店街/アトリエわらわら(旧鈴木商店)、佐藤塾、三島市立西小学校、根継商店、蓮馨寺

『笑栄通り・六反田アートサイクル展』

実施日程：2025年1/30～2/3
会場：Via701ギャラリー701

関係者数：(延べ) 425人

持塚三樹(アーティスト)、大月ヒロ子(ミュージアム・エデュケーション・プランナー)、三島広小路笑栄通り商店街、元小学校教諭や保育教諭等の教育関係者、地域ゆかりのミュージシャン、総合美術研究所アステール等

好奇心とソウゾウのパワーを結集し「こどもアート」に挑んでいきます！



榎本 亜子さん

15 松崎まちかど花飾り

団体名：松崎まちかど花飾り実行委員会 | 地域：松崎町



花をテーマにした町民の表現活動を通じて、松崎町の新しい観光事業を目指す「松崎まちかど花飾り」。江戸末期から栄えた歴史と文化の香りが漂う町並みや、伊豆長八美術館の広場を舞台に、町民とアーティストの協働でつくり上げた数々の作品により、まちの魅力を発信する花の芸術祭を展開した。

『松崎まちかど花飾り』

実施日程：2024年10/19～11/10
会場：中宿通り、なまこ壁通り、長八美術館噴水跡地、明治商家中瀬邸、伊豆文邸、浜丁、重文岩科学校地前ほか

関係者数：(延べ) 229人

持塚三樹(アーティスト)、徳原真人(ガーデンデザイナー)、松崎町花の会、生け花大好き十人会、高野恵聲花塾、まちフェス会議、元気クラブ、ハーバリウム実行委員会、渡辺企画、地域おこし協力隊、小中学生、町民有志の会等

「花とロマンの里」「まちかど花飾り」をアートにつなぐ



渡辺 攻さん

13 第7回熱海怪獣映画祭

団体名：一般社団法人熱海怪獣映画祭 | 地域：熱海市



怪獣・特撮映画と縁深い“街の地域性”を活かして、熱海で展開する映画祭は今年で7年目となった。俳優はもちろん、巨匠から若手までのクリエイター達を招いての上映会、来街者も市民も楽しめる屋外イベントや、お絵かきコンクールなど多岐に展開。「熱海を怪獣の聖地に!」をキーワードに、街のデザインと活性化に取り組んでいる。

『第7回熱海怪獣映画祭』

実施日程：2024年10/26, 10/27
会場：熱海温泉ホテルサンミ倶楽部、熱海海浜公園(同時開催「熱海ビール祭り」)

関係者数：(延べ) 260人

小高恵美(女優)、富山省吾(プロデューサー)、開田裕治(怪獣絵師)、佐藤大介(プロデューサー・特撮監督)、井上誠(音楽家)ほか怪獣映画関係者、笠井信輔(フリーアナウンサー)ほかゲスト、出店者、協力協賛企業・団体、熱海商工会議所、熱海市観光協会等

「熱海を怪獣の聖地に!」実現へ一歩ずつレベルアップ!



水野 希世さん



地域 はじまり 支援

START-UP
CATEGORY

16 イナトリアートセンター計画

団体名： 合同会社 so-an | 地域： 東伊豆町



郷土史に残る偉人の家系が所有していた旧邸を、稲取地区や伊豆半島の文化や情報が集積するアートセンターへと蘇らせるプロジェクト。事業2年目となる今回は、稲取の文化や歴史を掘り下げ、港町ならではの路地裏文化を体験できる外構やタイル画をつくるワークショップを通して、地域住民も参画しやすい拠点づくりを目指した。

『第二回イナトリ・アート・フェス』

実施日程： 2025年2/1～2/24
※東伊豆町立図書館巡回展 3/1～3/30

会場： 湊庵路考茶(旧西山邸)、よりみち135(旧稲取幼稚園)、すみんこカフェ、ダイロクキッチン、まちのレセプションようよう、東伊豆町立図書館(巡回展)

関係者数：(延べ) 41人

癸生川栄(ディレクター)、安部良(建築家)、白須純(アーティスト)、柳瀬可奈子(地域おこし協力隊)、東伊豆認定こども園、山下建築

港町の魅力探究の輪を
これからも広げます!



荒武 優希さん

2024年度「文化芸術による地域振興プログラム」成果報告会 レポート



(撮影：近藤ゆきえ)

実施日程： 2025年2月9日(日)
会場： アクトシティ浜松コンgresセンター 31会議室
来場者： 95人(2024年度助成団体、行政関係者、文化団体等)

2月初旬の成果報告会では、今年度助成事業を実施した29団体が一堂に会した。会場内に4つの島を設け、それぞれの島で同時に行われる成果発表を、参加者が各々の関心に合わせ選択して聞く形式とした。発表や質疑応答の声が四方から聞こえる会場には、常に人が行き交い、あちこちで小さな交流が生まれた。最後には有識者3名による講評の時間を設けるとともに、各氏には後日あらためて本報告会のレビューを執筆していただいた。

■ユニークなプロジェクトが同時多発で展開しているとは、静岡県恐るべし、である。成果報告会等の場を通じて団体同士が双方向の交流を展開していき、そこから新しい取り組みが生まれてくることが期待される。(太下義之/文化政策研究者)

■「どうすれば豊かな大地が創造できるのだろうか?」と誰もが頭を抱えるものだ。でもそれを解決するきっかけは、誰かと「会話」をすること、そして今いる場所から思い切って外に出てみることに繋がること、それが成功への近道。そして半歩先を見て歩むこと。(梅田英春/静岡文化芸術大学文化政策学部教授)

■課題と課題の接するキワにある問題にこそ予測もできない未来のある時に際立ってくる可能性の術が隠れているに違いない。こういうモノを我々日本人は「キワドイ」と言ってきた。キワドイは、未来の扉を開けるカギなのだ。(平野雅彦/アーツカウンシルしずおか特別相談員)

上記レビューの全文は ArtS ウェブサイト内「コラムいっぶく」で読むことができます。



18 デモクラティックスクールび〜だとつくる人々

団体名: つくるぞうのへや | 地域: 浜松市



● 『くるくるび〜だ』
(複数のアーティストによるスクールでの滞在制作)
実施日程: 2024年4月〜12月

● 『び〜だフェスタ』
実施日程: 2024年10/13
会場: デモクラティックスクールび〜だ

👤 関係者数: (延べ) 60人

大村智子(料理家)、スズキサチコ(美術家)、柏原崇之(木工作家)、び〜だフェスタ運営協力者、そよよの家、学生ボランティアスタッフ、び〜だに通う子どもの保護者等

フリースクール「デモクラテックスクールび〜だ」を拠点に、アート、食など「つくる」人との出会いの中で、スクールに通う子どもたちにとっての様々な成長の種を蒔くプロジェクト。また、子どもたちが企画する「び〜だフェスタ」を通じた地域住民との交流を経て、大人も子どもも自分らしくいられる場への理解を促した。

フリースクールと芸術家に関わる人の輪を広げていきます

寛 有子さん



対象: アートプロジェクトの実施に向けた試行的取り組み

助成金額上限: 30万円

助成率: 助成算定経費※の10/10以内 ※助成対象事業の実施に要する経費から補助金、負担金、その他の収入(自己資金を除く)を控除した額のうち助成対象経費に該当する経費

○ 実施プログラム

団体名: ○○○○○○○○○ | 地域: ○市(町)



● 『○○○○○○○○』
【実施日程】○年○/○-○/○
【会場】○○○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○

👤 関係者数 / (延べ) ○人
○○○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○

2023年度の活動内容紹介○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

団体代表者コメント○○○○○○
○○○○○○○

○○○さん

2024年度事業の中で実施した
主なイベント等の概要

イベント来場者数ではなく、団体
構成員はじめ事業の企画運営に
関わった人数を示す

19 浜名湖ぐるりめぐるクリエイションツアー

団体名: 演劇ユニット FOX WORKS | 地域: 浜松市



● ヒアリングツアー
実施日程: 2025年1/11, 1/25, 2/2

● 『浜名湖ぐるり巡るクリエイションツアー』
実施日程: 2025年2/22
会場: 湖西市本興寺客殿

👤 関係者数: (延べ) 93人

湖西市立新居高校ボランティア部演劇班、福岡大吾(新居高校教員)、湖西・新居町観光協会、湖西市商工会、小松楼まちづくり交流館、NPO法人DiGtag、浜松市姫街道、銅鐸歴史民俗資料館、気賀関所資料館、長坂養蜂場等

地元高校生を中心としたクリエイションチームを組み、浜名湖周辺地域の魅力と課題を地域住民から聞き取るためのヒアリングツアーを複数回実施。ツアーを通して得た情報をもとに舞台作品の骨子を作り、アートパフォーマンスを創作・上演した。一連の過程を通じて、地域の過去・現在・未来を考える機会をつくりだした。

地域の課題と新しい交流を生む活動を続けていきます

狐野 利典さん



17 共生の為のアートプロジェクト ~地域交流・信頼関係構築を目指して~

団体名: NPO 法人 新居まちネット | 地域: 湖西市



● 『ART MONTH 小松楼~人と人をつなぐアート~』
(アーティストとの交流、地域文化団体との意見交換会等)
実施日程: 2024年11/7, 16, 17, 20, 21, 12/18
※アーティスト作品展示 11/16 ~ 12/18
会場: 小松楼まちづくり交流館

👤 関係者数: (延べ) 13人

宮本華子(アーティスト)、三本木欽(アーティスト)、鈴木典之(湖西市副市長)、シラスカリフォルニア、女子美術大学相模原キャンパス、静岡文化芸術大学、浜松鴨江アートセンター等

「ART MONTH 小松楼~人と人をつなぐアート~」と題し、共生の為のアートプロジェクトとして、地域との連携やこれまでの小松楼ギャラリーの活動を発展的に取り込み、人づくりや、アーティストとの交流を深めていった。アートを通じた交流の場を創出していくことで、住民自身が地域の良さを理解し、地域住民の意識変容を目指した。

アートによる気づき、人脈づくりなど、輪が広がります

山口 識行さん



22 あるもんで演劇 演劇×オルタナティブ教育×オクシズ

団体名: NPO 法人静岡あたらしい学校 | 地域: 静岡市



静岡市牛妻地域にあるオルタナティブスクールを拠点に、地域に“あるもん”（元々ある人材や資源）を活かしながら、関わる人の誰もが主役になれる演劇づくりを目指すプロジェクト。2024年度は、地域の寺社や保育園等を訪問し、そこで演劇公演を実施していく地域密着型のデリバリー公演を実施した。

- ワークショップとクリエイション
実施日程: 2024年 4/17, 5/31, 6/5, 24, 7/1, 17, 22, 24, 25
- 『ワク粋!あるもんで演劇デリバリー』
(演劇作品の発表)
実施日程: 2024年 7/26, 7/28
会場: 静岡あたらしい学校、牛妻地区個人宅、福寿園、牛妻保育園

👤 関係者数: (延べ) 174人
宮城嶋遥加 (俳優)、佐藤里瀬 (衣装デザイナー)、坂本彩子 (SPAC制作部)、野澤さやか (カメラマン)、中島法晃 (舞台美術家)、牛妻保育園、福寿院、牛妻地区住民等

「あるもん」を大切に緩やかに
地域や学びと繋がります



酒井田 愛香さん

20 みかんの里より 15 の春プロジェクト

団体名: UBUBU | 地域: 浜松市



みかんが主幹産業の三ヶ日町で、多種多様な仕事を手がける大人たちの経験を通して、中学卒業（15歳）前の子どもたちに、幅広い将来の選択肢を伝えていくプロジェクト。今回は、大人たちの「人生を変えた一冊」を詰め込んだ移動式本棚や、教育現場等での対話の機会をつくり、一人でも多くの子どもたちにアクセスできる環境を整えた。

- 『みかんの里より 15 の春プロジェクト』
実施日程: 2024年 7月～2025年 1月
会場: sunRin舎、浜松市内小中学校等

👤 関係者数: (延べ) 112人
野口亮 (株式会社シード経営企画室)、地域で活躍する多様な大人たち (杉山海斗 / 医師、森下幸菜 / 整体師、上條駿 / 木こり、石井真人 / アスリート、小池友加里 / 助産師、bungobungo / アートディレクター)、外国人ボランティア講師 (料理家、舞台人など)、一般社団法人ジュニアサポーター浜松、浜松市立富塚小学校、伎倍小学校、三ヶ日東小学校、積志中学校等

地域全体の活動にむけて
働きかけを継続させます!



久米 ゆきさん

23 これすご!プロジェクト～福祉分野に表現活動の価値を浸透させるプロジェクト～

団体名: cocore | 地域: 静岡市



障害のある方のこだわり、独自のくせ、楽しみなどから生まれる、何だかよく分からないけれどちょっと気になる日常の表現活動 (作品) を発掘。「みつけた!アート 2024」と題して公募等により作品を集め、それらを介した対話プログラム「見る・考える・聞く・話す」や、有識者を交えた自由な意見交換会を開催。障害のある人の表現に関するネットワークの拡大も図った。

- 「みつけた!アート 2024」により集まった作品を介した対話プログラム
『見る・考える・聞く・話す』(意見交換会)
実施日程: 2024年 8/25, 9/29, 10/20
会場: 静岡大学教育学部附属特別支援学校ゆうゆう館、静岡市番町市民活動センター

👤 関係者数: (延べ) 81人
小林瑞恵 (社会福祉法人愛成会 副理事長 / アートディレクター)、今泉岳大 (岡崎市美術館学芸員)、永野香里 (七.九制作所 / フリーランスライター)、静岡市内福祉事業所、当事者団体、保護者団体、特別支援学校等

これすご!なアートを
みつけて、みんなで面白
がってみたいです。



須田 亜紀さん

21 オペレッタ会議～伊久美小オペレッタの継承と発展を考える会

団体名: 伊久美茶話クラブ NEO | 地域: 島田市



2023年度で閉校となった伊久美小学校で1983年から代々公演されてきた、セリフと歌で構成するお芝居「オペレッタ」の継承と新しい発展を目指すプロジェクト。オペレッタの経験者である地域住民への取材や、題材となっている地域の民話等をリサーチしながら、地域内外の参加者とともにオペレッタを創作・発表し、地域振興へ繋がった。

- オペレッタ試演会『伊久美小オペレッタ誕生物語 ひのき峠のおじょうさん』
実施日程: 2024年 11/9
会場: 島田市伊久身農村環境改善センター やまびこ

👤 関係者数: (延べ) 8人
仲田恭子 (舞台演出家)、杉山雅紀 (俳優)、オペレッタ参加者、島田市立島田第一小学校等

子供も大人も楽しく参加できる
ような工夫を重ねていきます!



仲田 恭子さん

26 第3回 三保海浜マラソン

団体名：三保海浜マラソン実行委員会 | 地域：静岡市



まだまだ知られていない三保松原の魅力を伝え、景観保全の啓発につなげるために開催された、砂浜を走る「三保海浜マラソン」。順位を競うだけでなく、心身の健康促進や応援のためなど、様々な人が楽しめる新しい部門は好評を博した。これからも、多様な人の関わりしるを作ることで、地域に一体感が生まれるような大会を目指していく。

『第3回三保海浜マラソン ～わらって はしって つながって～』

実施日程：2025年 1/18
会 場：清水灯台付近

👤 関係者数：(延べ) 401人

清水和太鼓連絡会、B型就労継続支援施設 nanairo、(一社)三保松原 3rings プロジェクト、静岡県立清水南高校ダンス部及び報道部、田村通雲(書道家)、品川公春(ラジオパーソナリティ)、あまる(大道芸人)、宮城嶋遥加(舞台俳優)、大石美垂(SPAC-ENFANTS プロジェクト)、鬼澤蒼空(SPAC 演劇アカデミー)等

「走る」でみんなが繋がり、
笑えるまちを目指したい!

宮城嶋 開人さん



24 『クビ』か『ウチクビ』か

団体名：HAHAHANO.LABO | 地域：静岡市



「かあさん、どっちがいい? 『クビ』か『ウチクビ』」。長年勤めていた仕事を「クビ」になった団体代表の息子が発したユニークな問いかけが、事業名の由来。障害のある人たちの思いも寄らない発想や言葉を起点に、新しい仕事のあり方を探るプロジェクト。静岡鉄道(株)の従業員と対話の機会を設け、互いの悩みを相談しあうなど、これからの障害者雇用のあり方を検討した。

- はたらくことの報告会
『「クビ」か「ウチクビ」か・vol.1~6』
実施日程：2024年 5/25, 6/22, 8/10, 9/28, 12/21,
2025年 1/25
会 場：(株)エイエイビー静岡支店会議室
- 静岡鉄道従業員との悩みごと相談会
『「クビ」か「ウチクビ」か・座談会』
実施日程：2024年 10/31, 2025年 1/9
会 場：シェアオフィス= ODEN
(静鉄コワーキングスペース)

👤 関係者数：(延べ) 123人

株式会社エイエイビー、静岡鉄道株式会社、静岡ガス株式会社、ケアイ化成株式会社、静岡県社会福祉協議会、高橋敏夫(撮影)/(株)ワークオン・フレーム)等

彼らの主体性に乗っかって
企業がうっかり
何かしたくなるといいな。

二宮 奈緒子さん



27 夏休みインクルーシブこどもシアター

団体名：一般財団法人静岡市国際交流協会 | 地域：静岡市



外国にルーツを持つ児童生徒と日本人の児童生徒が、地域住民らとともに、演劇を通して交流し、自ら問いを探し、話し合い、形にしていくプロジェクト。この取り組みを通じて、子どもたちが、表情や仕草といった言葉のみに頼らない表現力、コミュニケーション力等を獲得し、誰もが活躍できる包括的な社会の実現を担っていくことを期待する。

『夏休みインクルーシブこどもシアター』

実施日程：2024年 7/30, 31, 8/1, 2, 3
会 場：教覚寺会館

👤 関係者数：(延べ) 15人

蔭山ひさ枝(俳優、人宿町やどりぎ座支配人、一般社団法人静岡アート支援機構理事)、望月奈津子(日本語指導員)、インターン(大学院生)、ボランティアスタッフ等

子ども達の表現する力をアートで
育てていきたいです!

石黒 幸子さん



25 ART FROM プロジェクト

団体名：株式会社小学館集英社プロダクション | 地域：静岡市



静岡刑務所の受刑者が生活している三畳の部屋をギャラリーにする「三畳画廊」。受刑者による作品を、常葉大学の学生とコラボレーションした展示スタイルによって公開した。鑑賞者から、刑務所という場や作品への率直な感想を寄せてもらうことで、鑑賞者と受刑者との間接的な交流が生まれるように工夫し、地域社会と刑務所をアートでつなぐことを目指した。

- 『三畳画廊』
実施日程：2024年 11/8, 17, 22, 12/7, 13, 20,
2025年 1/11, 17, 24
会 場：静岡刑務所

👤 関係者数：(延べ) 93人

常葉大学造形学部、静岡刑務所刑務官

三畳の小さな世界から
アートを届けます!

久木野 純子さん



2024 年度限定の助成制度

今年度の「文化芸術による地域振興プログラム」では、東アジア文化都市 2023 静岡県のレガシーとして、2024 年度限定で次の 2 つの制度を追加運用した。県内で行われる文化芸術活動のうち、地域住民が参画する要素を持ち、将来的に「地域クリエイティブ支援」「地域はじまり支援」につながり得る事業に対して、試行的に助成を行った。



文化芸術専門協働事業助成 (14 件)

文化によって住民の暮らしを豊かにし、地域の活性化や観光の振興などにつながるイベント等を静岡県内で開催する文化団体の活動 (助成金額上限 500 万円)

- 1 天竜浜名湖鉄道株式会社 …… 舞台芸術の魅力発信及び国際交流促進事業
- 2 学校法人新静岡学園 静岡産業大学 …… 静岡産業大学ダンスのタベ 2024 ~ダンスダンスダンス~
- 3 佐藤典子舞踊団 …… とおとうみ舞語り vol.1 天龍川をめぐる二つの物語
- 4 原泉アートプロジェクト …… 原泉アートデイズ! 2024
- 5 掛川百鬼夜行実行委員会 …… 掛川百鬼夜行 第三夜
- 6 NPO 法人クロスメディアはまだ …… 大井川国際アーティスト・イン・レジデンス事業
- 7 牧之原市将棋によるまちづくり実行委員会 …… 牧之原市将棋交流大会
- 8 富士山コスプレ世界大会実行委員会 …… 第 10 回富士山コスプレ世界大会
- 9 公益財団法人静岡県舞台芸術センター …… 日韓青少年演劇交流キャンプ
- 10 地域連携モデル事業 2024-2025 実行委員会 …… 地域連携モデル事業 2024-2025
- 11 演劇ユニット HORIZON …… 演劇ユニット HORIZON 第 19 回公演 Immersive theater 『monocone』及び併設マルシェ『幻想九龍出張市場』
- 12 NPO 法人静岡県音楽コンクール委員会 …… 2024 第 43 回静岡県学生音楽コンクール
- 13 PROJECT ATAMI 実行委員会 …… ATAMI ART GRANT 2024
- 14 NPO 法人 ライフ熱都 …… 第 2 回ジューバー祭

文化芸術活動広報支援助成 (12 件)

文化芸術による地域振興につながる可能性のあるアートプロジェクト等の広報活動 (助成金額上限 30 万円)

- 1 NPO 法人シラスカリフォルニア …… おいしい?かわいい?毒がある!?シラスカのショクブツ展
- 2 掛川ひかりのオブジェ展実行委員会 …… 第 25 回掛川ひかりのオブジェ展実行委員会
- 3 山崎パラダイス …… 山崎山での交流イベント・記録映像作品の上映会開催、および動画配信サイトでの記録映像作品の配信
- 4 島田市民文化祭実行委員会 …… 第 67 回 島田市民文化祭
- 5 アートひかり …… 耕す演劇プロジェクト
- 6 劇団 Z・A …… 劇団 Z・A2024 年冬公演「REDonDesert」
- 7 岳南音楽祭実行委員会 …… 第 5 回 岳南音楽祭
- 8 プラサヴェルデ運営共同事業体代表団体 株式会社コンベンションリンケージ …… ものがたり博 in ぬまづ
- 9 NPO 法人レザミ・デ・ザール …… 人や場をつなぐアートコミュニティー
- 10 一般社団法人スケラボ …… ル・フリーックス・クラブ『シャ・ドワゾーのふしぎなお庭』
- 11 PROJECT ATAMI 実行委員会 …… ATAMI ART GRANT 2024
- 12 伊東サルサ愛好会 …… 「伊東ラテン化計画★ SUMMER OF SALSA」イベント事業

※西部、中部、東部の順で並んでいます

28 音楽の力で認知症予防 —地域共生社会の実現に向けて—

団体名: 熱海メモリーズ | 地域: 熱海市



認知症の人もそうでない人も参加することができる音楽会を開催。音楽を通じた交流の中から参加者同士が繋がることができ、認知症予防にも繋がるような参加型プログラムを実践した。その中で多世代交流や関係性が生まれ、熱海市における地域共生社会創出への一歩となることを目指した。

- 『熱海メモリーズ音楽祭』
実施日程: 2024 年 8/24
会場: 起雲閣音楽サロン
- 『第 2 回 熱海メモリーズサロン冬の祭』
実施日程: 2025 年 1/26
会場: 熱海中央公民館

👥 関係者数: (延べ) 181 人
ミスターマコトほか音楽祭出演者、小倉育恵、真野有奈、河合桂子等

音楽の力で認知症を
楽しく予防しましょう!



松野 敦子さん

29 松崎町ふるさと絵屏風プロジェクト

団体名: 松崎ふるさと絵屏風研究会 | 地域: 松崎町



地元の高校生を中心に、高齢者から昔の暮らしや地域に残る伝承、歴史等を聞き取り、昭和 20 年代、30 年代の松崎を絵屏風に再現するプロジェクト。絵屏風完成後は高齢者が語り部となり次世代に記憶や知恵を継承し、まちの魅力を再確認していく。この活動を通じて、地域のつながりが再構築されることを目指している。

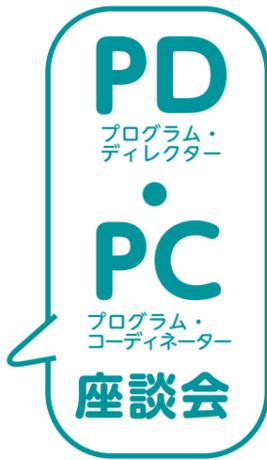
- ふるさと絵屏風の下絵制作作業
実施日程: 2024 年 10 ~ 12 月
会場: 静岡県立松崎高等学校
- ふるさと絵屏風下絵お披露目会、セミナー
実施日程: 2024 年 12/21
会場: 旧依田邸

👥 関係者数: (延べ) 25 人
上田洋平(ふるさと絵屏風創始者/滋賀県立大学)、竜王真紀(滋賀県甲賀市健康福祉部)、滋賀県東近江市八日市地区まちづくり協議会、葉山ふるさと絵屏風継承会、佐々木正章、青島幸雄、関野志保(特別養護老人ホーム・松崎十字の園)、静岡県立松崎高等学校美術部、松崎町民等

松崎の昔を知り今に
つないでいきたいです



内山 智尋さん



アートプロジェクトとは何か？

アーツカウンシルしずおかでは「文化芸術による地域振興プログラム」を通じて、地域のみなさんが担い手となる「アートプロジェクト」を支援しています。まちづくりや観光、福祉、教育、産業など、さまざまな分野と文化芸術が協働する「アートプロジェクト」とは何なのか。アーツカウンシルしずおかのPD・PC（プログラム・ディレクター、プログラム・コーディネーター）5名による座談会を開き、これまで支援してきたプログラムを振り返りながら、「アートプロジェクト」の意義や波及効果について、改めて考えてみました。



それぞれの伴走支援「自分事」として引き入れる

鈴木 「アートプロジェクト」と言ってもさまざまな活動がありますが、これまで支援してきた中で、「これぞアートプロジェクトだな」と感じた印象的な事例について教えてください。

榎野 僕が担当した障害福祉に関係する現場では、関わる人にとって、アートプロジェクトが障害を他者化せず、「自分事」として引き入れる装置として機能していると感じることがあります。たとえばトラブルや衝突があっても、「社会課題」や「地域課題」といった他者の問題と捉えるのではなく、「自分事」として意識されているために、一度立ち止まったとしても再び前に進んでいけるという事がよくありますね。

北本 関わる人すべてが当事者になるということですね。アートプロジェクトの現場では、いくつもの小さなトラブルや面白い出来事に遭遇し、そこに当事者として関わることになりました。そしてその出来事をきっかけに、これまで無関係だった人と繋がったり、お互いの深いところを知ることになったり、何かが変わるきっかけになったり

します。現場で対応する人は大変ですが、そういった事がアートプロジェクトの面白いところじゃないかなと思います。

鈴木 アートプロジェクトって、振り返ったらもう二度とやりたくないって思ったりして（笑）。「よくやり切ったな」と自分を褒めたりします。プロジェクトを長年に渡って継続している団体には、本当に頭が下がります。

継続することで、思いが飛び火していく

立石 継続の話で言うと、「自分たちのまちをもっと面白くしたいよね」というお酒の席の話からプロジェクトが始まって、今では関連イベントやコラボメニュー開発など、地域に大きなインパクトを残せるようになったプロジェクトもあります。回を重ねるごとに周囲を巻き込み、今まで見ていなかった地元クリエイターの存在が顕在化したり、外から若手のクリエイターが集まったりと、新たな展開も生まれています。このような継続しているからこそ生まれてくる地域の化学反応みたいなものが、アートプロジェクトの醍醐味だと思います。

若菜 市民の手によるアートプロジェクトは、商業的なイベントにはない独特の動きや熱量がありますね。市民がプロジェクトに面白さや手応えを感じているからこそ、皆さんのマンパワーだけでも続けることができているのではないのでしょうか。

鈴木 継続することで、思いが連鎖し、飛び火していく——これはプロジェクトならではのですね。プロジェクトの存在や、アーティストの熱意につられて、気がつけばいろんなものを持ち出したり、引き出されたり、新しいことにチャレンジしていたり。そういったことが自然と起こっている気がします。

なぜアートが必要なのか？

鈴木 では、そもそもなぜアートプロジェクトやアートの力が必要とされているのでしょうか。ひとつには、アートプロジェクトがさまざまな人たちのやりたいことや思いの受け皿になるということがあるかもしれません。街角の空き地や広場のよう、に、仕組みの中には完全に組み込まれていないけれど、たしかに街の一部である。そうした「余白」の豊かさ、魅力ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

PD (プログラム・ディレクター)・PC (プログラム・コーディネーター)



榎野 展正

チーフプログラム・ディレクター

2000年より福祉施設で働きながら、広島県福山市にある鞆の津ミュージアムでキュレーターを担当。2016年、アウトサイダー・アート専門スペース「クシノテラス」開設のため独立。総務省主催「令和3年度ふるさとづくり大賞」にて総務大臣賞受賞。



北本 麻理

プログラム・ディレクター

アートキャンプ白州でダンスと出会い、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、舞鶴市文化事業団、ビッグ・アイ、NPO法人JCDN等の企画運営を通して、舞台芸術と社会の循環と関係性を考察。『三陸国際芸術祭(2015)』プログラム・ディレクター。



鈴木 一郎太

プログラム・ディレクター

ロンドンでアーティストとして活動後、NPO法人クリエイティブサポートレッツで障害と社会をつなぐ事業に携わる。2013年の独立後は、主体者の思いから展望を見出す企画づくりを軸に、様々な分野の事業に関わる。Central St. Martin's College of Art and Design MA Fine Art 修了。



立石 沙織

プログラム・コーディネーター

静岡文化芸術大学にてアートマネジメントを専攻後、ギャラリーやNPO等で、アーティストの支援やアートによるまちづくりに従事。展覧会やアートプロジェクト、アーティスト・イン・レジデンスの企画運営、広報を担当した。



若菜 ひとみ

アシスタント・コーディネーター

自治体職員として若手芸術家の支援やミュージアムの企画運営など文化振興業務に従事。フラッシュ・モブ・ハブニング主宰。コミュニティラジオの映画番組の立ち上げ、番組運営に携わる。2011年より社会人劇団の制作を担当。



若菜

そうですね、私もアートプロジェクトの特徴は「余白」にあると思います。私が伴走支援した演劇祭では、演劇のバックグラウンドを持たないスタッフの提案で、演劇業界で慣例的に行われてきたことを改善し、演者も裏方もより良い環境で公演することができました。これは、これまでアートを鑑賞する側だった人たちが、プロジェクトを進める中に、つくり手と対等に関わることができ「余白」があったからこそだと思います。

また古民家での展示プログラムでは、これまで他者に自分の作品を触らせなかったアーティストが、プロジェクトを通じて団体と信頼が築かれ、自分の作品を託すようになりまし。アーティストのキャリアを拡張させる「余白」があると、いうことも、アートプロジェクトの良いところだと思います。

立石

私は「アートによる空き家活用 Habitat」を担当していますが、空

そんな余白があるからこそエネルギーが生まれてくるのではないのでしょうか。

若菜 そうですね。効率性や生産性が求められる社会の中で、アートの文脈においては、無駄や、無意味だと思われることを追求できるということはあると思います。もちろん全くの無駄だとは思いませんが、「なぜアートなのか」の理由は、そこにあるのではないかと思います。

き家活用にはすでに多くの取り組みがあります。しかし、なぜアートなのかというと、やはりそこには

ビジネスにはない柔軟性があるからだと思っています。採算が合わず見放されてきた物件も、アートの領域では何かしら活用するきっかけを生み出すことができる。そこに期待があるからじゃないでしょうか。

榎野 ある種、予想していないことが起こる期待があるというか、良い意味で行き当たりばったりです。想定していない方向に進んでしまうこともあるけれど、小さな出来事が思いもよらない大きな変化をもたらすこともあります。そこがアートの力であり、僕もワクワクするところでもあります。

制約から自由にしてくれる
新しいコミュニティ

北本 ほとんどの人が何かしらの社会的制約に縛られて生きていますが、その制約から自由にしてくれるところも、アートの力だと思います。自由になることで、プロジェクトに関わる一人ひとりに小さな変化が生まれる。アートプロジェクトでは、そうしたことがいくつも起こっているなと思います。その状態を作っていくことがアートプロジェクトだと

思っています。

榎野 「アート(Art)」の語源には「技術」という意味があります。この技術とは、心のモヤモヤをアウトプットする技術だと思っんですよ。僕自身は、アートは自分だけの価値を世の中に問う事であり、それが得意なのがアーティストなんだろうと理解しています。一方で、アーティストを名乗っていない市民が思いをアウトプットする機会になるというところが、アートプロジェクトのひとつの特徴だと思います。そして、多様な人たちが共通の目標を持ち、自分の思いを語り合ったり、表現したりすることが出来る。それは、昔のお祭りや宗教に代わる、学校や職場や家庭とは違う、新しいコミュニティなんだと思います。

何か生み出したい
エネルギーがそこにはある

鈴木 「アートプロジェクトとはこういうものだ」と誰かが定義しても、必ず異論が出る。それを許容できる場がアートプロジェクトなのだと思います。普段の生活では問いに対してすぐに答えを求めがちですし、納得感も欲しくなるけれど、答えの出ない問いを体力が続く限り、問い続けられる、

榎野 考えを留保することが許されるということ、性急に答えをださなくて良いということ。ネガティブケイパビリティ(不確かさに耐える力)が培われる場でもあります。若菜さんの言う「非効率性」にも繋がってくる話ですね。

鈴木 アートプロジェクトは「悶々とした状態」を良しとしているわけではなく、「何か突破口を見つけたい」「何か生み出したい」というエネルギー

が根底にあるからこそでしょう。そして、一人で作るのではなく、みんなと一緒に進んでいく機会をアートプロジェクトがつくっているということだと思います。私たちの役割は、そのエネルギーが前に進むように後押しすることですね。

MAW note

旅人には作品制作などの成果物を求めず、情報発信サービス「note」での滞在日記とまとめの発信をお願いした。記事は毎日翌日中の更新としたが、字数制限なし、写真1枚でも可とした。まとめについては、1,000字以上の執筆を条件とすることで、クリエイティブ人材ならではの言葉で地域や滞在体験を綴ってもらった。

noteはこちらから



または「マイクロ・アート・ワーケーション 2024 note」で検索

MAW 小話

1

旅人の滞在中、毎晩開かれたご飯会。ホストは周りに住む知人達に日替わりシェフをお願いした。ご馳走は、地のものを使った料理から、エジプトのB級グルメまで多岐に渡る。毎晩出会うことで旅人のモチベーションは上がり、聞いたお店や、オススメの場所を訪れる原動力になっていたらしい。3人の旅人はそれぞれ異なるMAW noteに夕飯の様子を綴っている。(御殿場市)

佐野風史 / 早田仁知
「[白須賀] (滞在まとめ)」より抜粋

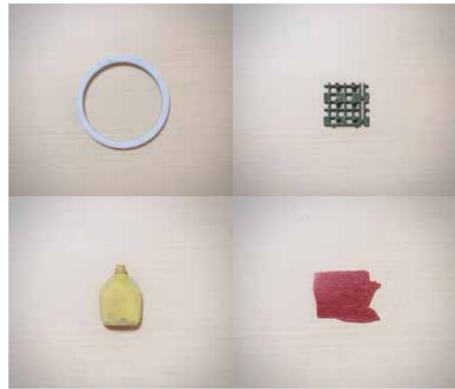
この6泊7日の滞在中、たくさんの白須賀らしい音に触れ合うことができた。海の音は場所によって聴こえ方が全然違うこと。湖の音にはなかなか馴染みがないと気づいたこと。人力織機や船たちが鳴らすリズムカルな音。きっとこの滞在中のおかげで、僕たちの「言語音に変換すると面白そうな景色の音」を拾う力が幅広くなっただろう。また、白須賀の景色を「聴きに」行きたいと思う。



白須賀の海 ↓

岩江圭祐
「沼津 | 牛臥海岸・我入道浜 (6日目)」より抜粋

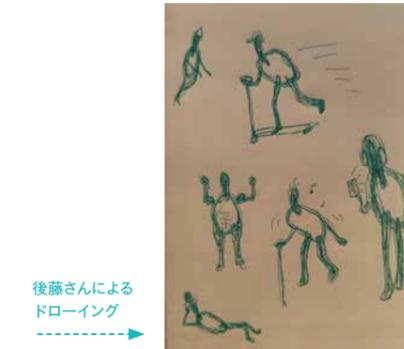
2024.10.5 海に流れ着く漂着物収集。
収集活動は何かリサイクルすることを前提としたわけでも、環境問題に対する啓蒙の意識があるわけでも何もなく、ただただ縁あってこの浜に流れ着いた私たちの生活の痕跡を愛でるだけ。
なんのためにやってるの?と聞かれても明確な答えはなく、見ている人が感じたいように見たいです。
ただ僕自身は、これを素材として何かに使おうと考えた時点で魅力半減。意味など考えず、ただただ愛でる、それが一番楽しい。



岩江さんが集めた漂着物 ↓

後藤理菜
「伊豆長岡エリア (6日目)」より抜粋

移動中に見かけた、忘れられないこのマークについて、さかなやステイで働いている方が教えてくれました。これは、地域でかなりご年輩の方に「高齢者」を描いていただき、実際に採用されたものらしいです。好きすぎて、なんか描いていました。
数日間の滞在中で色々な発見と作品のインスピレーションが湧きました。帰ったら物語作品を作るかも。



後藤さんによる
ドローイング
----->

4年目となるマイクロ・アート・ワーケーション (MAW) は、静岡県内各地で活動する団体が「ホスト」になり、全国から公募で集まったアーティストなどのクリエイティブ人材を「旅人」として受け入れ、地域とその人材の出会いをつくる取り組み。

旅人の滞在期間終了後も、ホストと旅人、あるいは旅人同士の交流が継続し、地域を巻き込んだ展覧会や写真展、コンサートが開催されたり、旅人との対話をきっかけに地域の市民協働型まちづくり事業がスタートしたりと、今年度もMAWの余波が各地で思わぬ広がりを見せた。

また、2023年度にホストを務めた4つの団体から、2024年度「文化芸術による地域振興プログラム」に応募があるなど、県内でアートプロジェクトに着手する団体を増やすきっかけにもなっている。

2024年度は、4月から6月にかけてホスト及び旅人の公募とマッチングを行った結果、県内全域で13団体のホストと、16都府県から37名が旅人として参加することが決定。8月から11月の間、旅人は6泊7日でホストの活動エリアに滞在した。

マイクロ・アート・ワーケーション (MAW)

MICRO ART WORK-ATION



2 旅をナビゲートするホストと岸壁採集に出かけた旅人。時間は夜。岸壁にライトを当てて、ライトに集まる幼魚の採集にトライ。といても相手は生き物。簡単には捕まらないうまいや、さすがは普段狩猟をするなど自然とともに生活している旅人だけあり、珍しい幼魚を採集することができた。旅人が採集した「アナゴのレプトケファルス幼生」は、幼魚水族館の一員になった。(清水町)

fresh air

モデルプログラム
(実証実験事業)

株式会社シタテ



りょう
清水 玲

モデルプログラムでは、三島市で滞在施設やコワーキングスペースを運営する株式会社シタテに対し、文字・建築・地質などに関心を持ち活動するアーティスト、清水玲氏をマッチングし、同社が選定した物件を舞台に作品制作を行った。

この事業は、空き家の活用にアートが関与するモデルを提示するものである。アートの関わりをきっかけに、空き家に対する人々の活用アイデアの幅が広がり、停滞していた状況に新たな動きが生まれるというストーリーを想定して実施した。

モデルプログラム実施スケジュール

- 8月 事業者公募
- 9月 清水玲氏と株式会社シタテのマッチング
- 10-12月 リサーチ(物件、三島市内、富士山周辺など)
- 1月 ワークショップ「地名にふれる」開催
- 2月 「窓をあける～習い合わせる ことのため～」展
- 3月 オンラインミーティング
「fresh air ふりかえっ茶会」



対象物件

三島市の商店街にあるビル3階の2部屋が対象となった。2階テナントと入口を共有していることや、部屋を隔てる壁に小さな穴があることから、不動産情報に掲載されにくく、貸したいという所有者の意向も知られず、長らく放置されていた。



対象物件の外観(撮影:磯村拓也)

作品

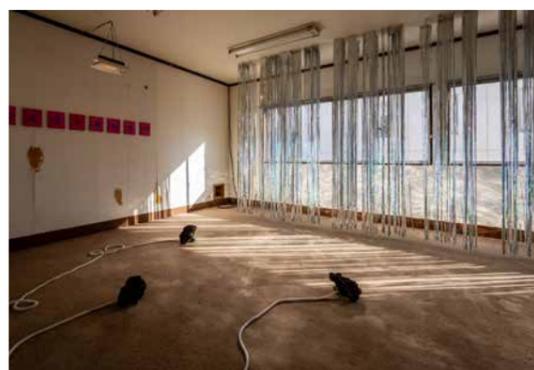
清水氏は10月から断続的に三島市を訪れ、自身の関心を起点に街や周辺の調査を重ねた。1月のワークショップを経た考察をもとに作品を制作し、「窓をあける～習い合わせる ことのため～」展として発表した。

作品は風や気温、湿度といった目に見えない要素を可視化・体感できる装置となり、鑑賞者に空き家の捉え直しを促した。壁の穴には水が流れるチューブを通し、2部屋を「つなぐ」ポジティブな役割が与えられた。

展示概要 清水玲「窓をあける～習い合わせる ことのため～」展
日程: 2025年2月8日(土)～24日(月) 土日祝日のみ開催
会場: ワーカーズリビング三島クロケット(本展受付) から徒歩3分のビル3階



ワークショップ「地名にふれる」開催の様子(撮影:磯村拓也)



清水玲《窓をあける～習い合わせる ことのため～》

右) In dreams begin the responsibilities 2025年 / 3000 × 900mm アルミ平板、タセルカーテン
床) こをろこをろにかきなして 2025年 / サイズ可変 富士山の溶岩、LED、スピーカー、音感センサー、スパイラルチューブ
左壁面) thermo-chromic painting (八父韻) 2025年 / 140 × 180mm (8枚) キャンバスにアクリル、示温塗料、ヒーター



アートによる 空き家活用 パイロット事業 fresh air

- ・モデルプログラム(実証実験事業)
- ・ワーキンググループ

2023年の「住宅・土地統計調査」(総務省)によれば、全国の空き家数、空き家率ともに過去最高を記録した。静岡県の空き家数も29万3,000戸で、このうち利用目的がなく放置された空き家は10万4,800戸に達する。

空き家には、建築や相続に関する法律、血縁や近隣との人間関係、所有者個人の考え方など、複数の要素が絡みあい、やむを得ず放置されるケースも少なくない。

そうした状況に対し、アーティストの視点や発想の面白さを提案するのが「fresh air」である。2年目となる今回は、空き家活用を手がける事業者とアーティストが実験的に協働するモデルプログラムを三島市にて展開するとともに、県内各地の実践者を集め、空き家活用におけるアートの有用性を議論するワーキングを実施した。アートをきっかけに、これまで閉ざされていた扉を開き、風をとおり、新しい空気を入れる——その意義について考察を深めた。

fresh air

考察と展望

今、アートを提案する意義とは何か (プログラム・コーディネーター 立石沙織)

空き家まつわる諸問題は、今や深刻な社会課題であり、国は関連法規を再整備し、基礎自治体では条例の制定や補助金の交付などの対策を講じている。これに呼応して、民間の事業者においても、様々な目的に応じた空き家や遊休施設の活用が進んでいる。静岡県内でもその事例は増加傾向にあると言ってよいだろう。

2024年度の「fresh air」はこうした背景のもと、今、アートを提案する意義とは何かについて考察を深めた一年であった。議論は多面的に展開されたが、特に重要な視点として、下記の2点を共有したい。

1 アートが空き家所有者等の意識を変える可能性

アートには、人々に感動や生きる喜びをもたらす本質的な価値があるのはもちろんだが、社会と接続することでその価値は拡張される。例えば、アートが生まれるプロセスの体験やアーティストとの対話が、物件所有者や地域づくりに関わるプレイヤーの意識に変化をもたらしたり、空き家を動かす“強い動機”を生んだりすることがある。

辻琢磨建築企画事務所の辻琢磨氏が、今回のワーキングでの議論において最も創造的だったのは「アートが空き家所有者の意識を変え、相続対策の行動を促す可能性がある」点であったと指摘するように、アートによる空き家活用は、建物の見た目や使い勝手を更新するだけでなく、課題の本質に向き合うための手段として機能する。これは、県内においてほとんど認知されていないアートの特性の一つである。



2 アーティスト独自の視点から見出す空き家の価値



NPO法人クロスメディアしまだの兒玉絵美氏は、「重要なのは、空き家を減らすことではない」とし、空き家活用においてアーティストに最も期待したいことは「空き家まつわる個人の記憶や家族の歴史を、現在のまちと結びつけること」であると言う。

モデルプログラムに参加したアーティストの清水玲氏が作品制作を通して我々に投げかけた問いの一つに、「神社も空き家ではないか？」があった。

清水氏は、神社を空き家だと主張したいのではもちろんない。空き家は建物の状態で定義することもできるかもしれないが、建物に向けられる「思い」の有無が空き家という認識の境目をつくることもあるのではないかと、アーティストならではの視座から来る問いかけだった。これこそアーティストの批評的視点であり、アートと社会の距離が近くなるに際して、より社会に理解されるべき特性の一つだと考える。

冒頭の扉で記したように、空き家には複雑な要素が絡む。だからこそ、いざ活用したいと考えても、様々な要因が絡み合い一筋縄ではいかない。不動産的なビジネスの観点から諦めざるを得なかったものや、まちづくりのソーシャルの観点から諦めかけているものなど多様だ。しかし、どんな理由があろうとも、そうした諦めに対してプレイクスルーを見出す機能を果たし得るのがアートの視点なのだ。

だからこそ、定量的な指標(一軒でも多くの空き家が埋まることや、使える物件が一軒でも多く増えることなど)とは異なる、アートによる空き家活用ならではの評価基準の設定に次年度は取り組みたい。

fresh air

ワーキンググループ

アートによる空き家活用ガイドライン 検討ワーキング

昨年度は、空き家活用に関わる専門家を集め、アートによる空き家活用が地域にもたらす影響や、その動きを波及・持続するために必要な事項を検討するワーキンググループを組織した。その議論をベースに、2024年度は空き家活用の主体である県内の事業者を西部・中部・東部から招き、アートによる空き家活用のフローチャート作成に向けたワーキングを行った。



2024年度ワーキンググループメンバーと事務局(撮影:大杉晃弘)

実施概要

ワーキンググループメンバー (順不同、敬称略)	山田 知弘	有限会社日の出企画 代表取締役(座長)
	兒玉 絵美	NPO 法人クロスメディアしまだ 事務局長
	鈴木 大介	吉原マネジメントオフィス株式会社 代表取締役 NPO 法人東海道・吉原宿 代表理事
	辻 琢磨	合同会社辻琢磨建築企画事務所 代表

事務局 混流温泉株式会社

日時および会場	第1回	11月26日(火) 10:00 ~ 12:00	……… 紙内田ビル(富士市)
	第2回	12月10日(火) 10:00 ~ 12:00	……… ヌクリハウス(島田市)
	第3回	1月20日(月) 10:00 ~ 12:00	……… 辻琢磨建築企画事務所(浜松市)
	第4回	2月18日(火) 10:00 ~ 12:00	……… みしま未来研究所(三島市)

実施内容

空き家活用におけるアートの有用性を可視化し、その価値を他の事業者に伝えるための手段を整理することを目的に、アートによる空き家活用の流れをまとめたフローチャートを作成した。

意見交換では、ガイドラインの対象者設定や、空き家活用の段階の細分化、アートがどのように作用するかについて議論が進められた。なかでも、所有者などの意識に変化をもたらす点がアートの有用性として挙げられ、その特性が浮き彫りになった。

次年度は、これまでの議論をふまえ、「アートによる空き家活用ガイドライン(仮)」(2026年度公開予定)の取りまとめを進め、空き家を活用したまちづくりに取り組む事業者への提案につなげていく。



第4回は、2023年度のワーキンググループのメンバーと、オブザーバーにも参加を呼びかけた(撮影:大杉晃弘)

令和6年度第2回 アーツカウンシル・ネットワークミーティング

令和6年度第2回アーツカウンシル・ネットワークミーティング(主催:日本芸術文化振興会)が、全国のアーツカウンシル・ネットワーク(AC-net)加盟団体や、地域アーツカウンシルの設置を検討している自治体・団体関係者を集め、グランシップにて開催された。

第1部「しずおかご当地トーク」では、ArtSからアーツカウンシルしずおかの事業概要を、静岡県スポーツ文化観光部文化局長・松田有紀氏からは設立経緯を、NPO法人クロスメディアしまだの兒玉絵美氏からは助成事業の事例紹介が行われた。

第2部では、参加者が4つの分科会に分かれ、各グループのゲストファシリテーターの進行のもと、アーツカウンシル・ネットワークの役割についてテーマごとに議論を行った。アートプロジェクトの現場経験から文化政策まで幅広い知見を持つゲストの参加により、客観的かつ踏み込んだ意見交換が実現した。

日程: 9/30(月) 10:15 ~ 16:30 会場: グランシップ6F交流ホール 参加者: 61人

分科会: テーマ・ゲストファシリテーター:

- A** 「コーディネート」からAC-netの役割を探る
ファシリテーター: 小川智紀(認定NPO法人STスポット横浜 理事長、社会福祉士)
- B** 「情報集積・発信」から見たAC-netの役割
ファシリテーター: 吉野さつき(愛知大学文学部メディア芸術専攻教授)
- C** 行政とアーツカウンシルの関係からAC-netの役割を考える
ファシリテーター: 小林瑠音(芸術文化観光専門職大学講師)
- D** 「ネットワーク」から考えるAC-netの役割
ファシリテーター: 森隆一郎(合同会社渚と代表社員)



TECH BEAT Shizuoka2024



アーツカウンシル・ネットワークミーティング



TECH BEAT Shizuoka2024

「TECH BEAT Shizuoka 2024」では、トークセッション1枠を企画し、3日間にわたって出展ブースを設置。助成団体によるアートプロジェクトの紹介と、クリエイティブ人材派遣制度の周知を行った。

また、後日開催されたフォローアップイベントでは、トークセッションに登壇したのち、TECH BEAT Shizuoka プロデューサーの一人である西村真里子氏とともに、参加者向けにアート思考のワークショップを実施した。

ブース出展 日程: 7/25(木)~27日(土) 会場: グランシップ エントランスホール
出展団体: 7/25(木)..... NPO 法人クロスメディアしまだ
7/26(金)..... 三島アートプロジェクト実行委員会
7/27(土)..... 竹部

トークセッション 日程: 7/25(木) 会場: グランシップ 大ホール
テーマ: 「クリエイティブを活かした老舗ホテルのイノベーション
~企業活動に取り入れるべきアートの視点~」
登壇者: 鈴木 健太郎(中島屋ホテルズ 代表取締役社長)
新井 まる(株式会社 maru styling office CEO)
鈴木 一郎太(アーツカウンシルしずおかプログラム・ディレクター)

ワークショップ 日程: 7/27(土) 会場: グランシップ交流ホール
※講師を紹介
テーマ: 「ビニール de 宇宙船! つくる! あそぶ! 廃ビニールの大宇宙船」
講師: Lab Qrio(2024年度「文化芸術による地域振興プログラム」実施団体)

トークセッション、ワークショップ 【関連事業】TECH BEAT Shizuoka 年間プログラム
「TECH BEAT Shizuoka 2024 AFTER BURNER #1 / BIZ meets ARTs !」
日程: 11/8(金) 会場: ヒトヤドホール(旧人宿町やどりぎ座)
テーマ: 「ビジネス×アート」
講師: 西村 真里子(TECH BEAT Shizuoka プロデューサー)
堀内 健后(TECH BEAT Shizuoka プロデューサー)
鈴木 稔(静岡県イノベーション拠点「SHIP」)
鈴木 一郎太(アーツカウンシルしずおかプログラム・ディレクター)

7月のイベントでは、クリエイティブ人材派遣制度の広報に重点を置いた。当日は助成事業実施団体にもブース出展を依頼し、企業関係者を中心とした来場者に向けて、ArtSやアートプロジェクトの紹介を行った。

大ホールで開催されたトークセッションには、前年度に同制度を活用した株式会社中島屋ホテルズ代表取締役・鈴木健太郎氏と、ウェブマガジン「ARTalk」の運営やアートを切り口にPRやコンサルティングを行う株式会社 maru styling office CEO・新井まる氏を招き、制度活用の内容やその後の展開、企業との実践事例を紹介。アートとビジネスの良好な関係性をアピールした。

11月に実施されたフォローアップイベントでは、約30名の参加者に向けて制度の事例紹介を行うとともに、西村氏と共同で設計したワークショップを通じてアート思考の体験機会を提供した。ワークショップは、アルミホイールや日用品を使って形をつくるという内容で、エフェクチュエーションの考え方を軸に設計し、個人ワークからグループワークへと展開する構成とした。参加者からは、「まず手を動かしてやってみる、できたものの意味を後付けするという体験はビジネスでも活かそうだ」、「アートの視点を身近にとらえることができた」といった声が寄せられた。

高齢者施設における超老芸術作品を通じた対話型鑑賞と絵画制作ワークショップ

高齢になっても独自の創作を続ける高齢者による表現に光を当てる「超老芸術」の取り組みをさらに発展させるため、県内の3つの高齢者施設の利用者を対象に、同じく高齢者である沼津市在住の本田照男氏の絵画を題材とした対話型鑑賞と、本人による絵画制作ワークショップを、NPO 法人レザミ・デザールに委託して実施した。

対話型鑑賞では「富士山」の絵画を眺めて、昔の登山の思い出を語る人があるなど、高齢者の長期記憶を引き出す効果があった。高齢者施設での絵画活動は、自尊心を損なわないように施設スタッフの配慮が必要なようだが、今回の絵画制作ワークショップで行った、丸・三角・四角という単純な図形を繰り返し描くという行為では、自由な創作を味わってもらうことができた。本事業は、取り組みの対象者である高齢者施設の利用者はもちろんだが、初めて同年代の方々に向けたワークショップを実施した講師側にとっても、生活の質(QOL)向上など、相互に良い影響が期待される取り組みとなった。



実施施設・日程・参加者数

実施施設	対話型鑑賞	絵画制作ワークショップ
医療法人友愛会	1月20日(月) 14:00~15:00 / 8人	2月10日(月) 14:00~15:00 / 9人
デイサービスすまいるほーむ	1月29日(水) 13:30~14:30 / 9人	2月26日(水) 13:30~14:30 / 9人
医療法人社団綾和会 掛川東病院 介護老人保健施設 結梗の丘	1月24日(金) 13:45~14:45 / 11人	2月18日(火) 13:45~14:45 / 11人

2025年4月、本田照男さんが急逝されました。絵画制作のワークショップでは、ご自身の故郷のお話で参加者の緊張をほぐすなど心を砕いてくださいました。その唯一無二の表現と生き様を通し「超老芸術家」を体現してくださった本田さんに、アーツカウンシルしずおか一同、心よりの敬意と哀悼の意を表します。



高齢者による表現活動の実態調査

県内の高齢者が表現活動にどの程度取り組んでいるのかを把握し、それが高齢者の生きがいなどにどのように結びついているかを検証するためのアンケート調査を実施した。

1年間に文化芸術活動を行った人は、アクティブシニア層では全体の35%に達した一方、高齢者施設の利用者は「移動手段がない」といった理由から27.7%にとどまった。文化芸術活動を行う主な理由は「楽しみや趣味」が最も多く、「人とのつながりや余暇の有効活用」も挙げられていた。多くの人が文化芸術活動に生きがいを感じており、文化芸術活動が精神的な充足感や生活の質(QOL)の向上に寄与していることが明らかになった。

その他の取り組み

OTHER INITIATIVES



クリエイティブ人材派遣制度は、新たな展開を模索する企業・団体・自治体に対して、アーティストなどのクリエイティブ人材を派遣し、意見交換や試行的な取り組みを支援するものである。

外部からのクリエイティブな視点によって既存の価値を見直し、新たな気づきを促すことで、関係者の創造性や思考の幅を広げることを目的としている。また、ビジネスを含む多分野におけるアーティストなどの活動領域を広げることも狙いの一つである。

今年度は、3つの団体に対して延べ5名のクリエイティブ人材を派遣した。

派遣先 irodori プロジェクト

遠州地域の障害のある人たちを対象とした公募作品展「irodori」の開催を通じ、浜松市内の企業と障害のある人たちを結びつける事業展開を目指す中で、今後の方向性を整理するため、美術家でアートディレクターの中津川浩章氏を派遣した。団体メンバーは、展示方法に関するワークショップや中津川氏との対話を通じ、事業の目標やその存在意義を改めて見つめ直した。



日程 | 7月24日(水)、9月17日(火)、10月28日(月)
派遣者名 | 中津川 浩章 (美術家、アートディレクター)

派遣先 静岡県中部地域局

昨今のサウナブームを受け、静岡県中部地域におけるサウナツーリズム推進のための検討会議が立ち上げられた。議論の充実を目的とし、3名のクリエイティブ人材を講師として派遣した。またモデルコース策定に際して、より固有性の高い地域特性を反映させるため、焼津市をモデルとしてアーティストによる地域リサーチも実施。検討会議では主にサウナや温浴施設、飲食店の情報収集にとどまっていたが、リサーチではサウナと親和性の高さが見込まれる地域イベントや、市民性に関わる事象が多く集まり、地域資源への広いまなざしが示された。



日程	派遣者名
11月29日(金)	藤野 将明 (藤野商事株式会社取締役、 一般社団法人ふくやま社中理事)
1月27日(月)	湊 三次郎 (株式会社ゆとなみ社代表)
1月10日(金)、17日(金)、 30日(木)、2月4日(火)、 16日(日)、17日(月)、19日(水)	本原 令子 (陶芸家、美術家)

派遣先 株式会社リビングディー第一建設

富士山本宮浅間大社と静岡県富士山世界遺産センターに隣接する好立地の宿泊施設「MUKU ten. 舎富士宮」の宿泊者の声をもとに、新たな観光資源の開発を目指し、地域住民との共創プロジェクトを開始した。このプロジェクトに対して、地域住民との関係作りやアイデアの引き出しを担うファシリテーターと、引き出されたアイデアを視覚化するグラフィックレコーダーとして、クリエイティブ人材を派遣した。



日程 | 3月21日(金)、22日(土) 派遣者名 | サノユカシ (絵描き・イラストレーター)

文化政策投資効果調査

静岡県の今後の文化振興を検討するため、文化政策を通じた文化芸術への投資効果を探る調査研究をスタートした。今年度は県内3つの公立文化施設の協力を得て研究会を開催し、各施設の担当者から過去の事業について説明を受けた。さらに、事業実施中や終了後に生まれた変化、つながり、気づきといったエピソードをヒアリングし、研究会参加者間で意見を交わした。



研究会開催日程

- 第1回 | 11月20日(水) 静岡県立美術館
- 第2回 | 12月19日(木) 公益財団法人静岡県舞台芸術センター (SPAC)
- 第3回 | 1月28日(火) 公益財団法人静岡県文化財団

アーティスト等の活動環境調査

アートと他分野の連携促進、アートコミュニティの拡充、さらには県外アーティストの移住や活動拠点移設の可能性を見据え、県内で活動するアーティスト、アートマネージャーなどを対象として、活動環境とコミュニティに関するアンケート調査およびヒアリング調査を実施した。

アンケート結果は2025年度、アーツカウンシルしずおかのホームページで公開し、ヒアリングを含む分析結果は、アーツカウンシルの事業展開や関係各所への提案に活用する。

静岡県内のアーティスト等の活動環境およびコミュニティに関するアンケート調査

- 調査対象 | 静岡県内に拠点を置くアーティストなど
- 調査方法 | インターネット調査 (県内のアート団体を通じた回答の呼びかけを実施)
- 調査期間 | 2025年2月21日(金)～3月24日(月)
- 調査内容 | ア) 文化芸術活動を継続するための環境について
イ) コミュニティ・他分野連携について
- 回答数 | 484件

ヒアリング調査

- 調査方法 | インタビュー
- 調査期間 | 2025年2月～3月
- 調査内容 | 県内での文化芸術活動について (活動状況、制作拠点、コミュニティ、地域や他分野との連携等)



アンケート結果

相談窓口

アートプロジェクトの主催者、アーティストや文化拠点の運営者など、文化芸術活動に携わる人々を対象に、企画・運営や、法律・経理の相談に対応する窓口を2021年より開設している。この窓口には、文化に限らずビジネスや行政など多様な分野からも相談が寄せられ、実際の取り組みに反映される事例も生まれている。

■相談対応者

 プログラム・ディレクター、
コーディネーター
(PD・PC)

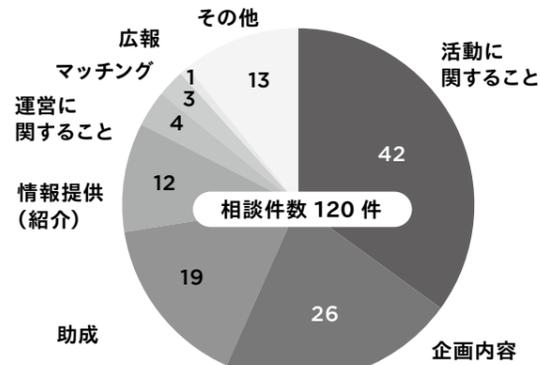
 弁護士、税理士、
中小企業診断士

 特別相談員
平野雅彦

プロフィール

静岡県広報業務アドバイザー、元国立大学法人静岡大学特任教授、客員教授。静岡市及び三島市文化振興審議会会長。各種コンクール審査員、芸術祭ディレクター、パネルディスカッションのコーディネーター、執筆等多数。

■相談内訳



■相談窓口

Case1 アーティスト

静岡県外の小中学校や児童養護施設への演劇や音楽のアウトリーチ活動を長年やってきた経験を生かし、県内の児童養護施設へのアウトリーチ実施を検討している。これまではコーディネーターが仲介していたが、今回は自身で施設にアプローチする必要があり、その進め方について相談したい。

PD・PC SUGGESTION

施設へ話をする際、これまでの活動実績に加え、「なぜこの施設でアウトリーチ活動をしたいのか」「自分に何が出来るのか」を明解に伝えることが、施設にとってひとつの安心材料になるだろう。また施設が取り組んでいることや課題意識も聞き取り、その中で自分の活動がどうフィットするかの見立てを立てることも重要だろう。さらに、職員、子どもたち双方との関係づくりを丁寧に進めることが、活動の継続性や信頼構築につながる。加えて、施設の周囲にいる支援者の存在にも目を向けておくと、アートプロジェクトならではの思いがけない展開や連携の可能性が広がるかもしれない。

Case2 経営者

静岡県内にもづくりができるカフェをOPENするため準備を進めている。「まちで子供を育てる」をコンセプトに掲げており、どのような形で地域の子ども達等を巻き込みながら、進めていけば良いものか。

PD・PC SUGGESTION

これから工具を揃えていく予定とのことだが、道具があるからこそできることもあれば、不自由な状態だからこそ発想や工夫にアプローチできる。現時点で道具が揃っていないという状況を逆手に取り、カフェを利用する子どもたちの創造力を焼き付け、彼らの意見を取り入れながら場づくりを進めていくのもおもしろいだろう。例えば、まちあるきをして壊れている場所を見つけ、それに合う修正パーツを勝手に作って家主に届ける、といった活動を通じて、まちの状況を使って、子どもたちがまちに目を向ける機会と、ものづくりを実践する機会の両方を生み出すことができる。

アートプロジェクトの実践に関心のある方々を対象として、アートプロジェクトの手法を学ぶ全3回の研修講座を開催した。「地域を巻き込む」「仲間づくり」「継続」という3つのテーマを各回のゲスト住民プロデューサーに合わせて設定し、講師の小川希^{のぞむ}氏も交えた質疑や対話を繰り返した。

小川氏からは、自身が吉祥寺で運営する芸術複合施設 Art Center Ongoing を立ち上げるまでの経緯や、3ヶ月かけて東南アジア9カ国83箇所のアートスペースのリサーチを行った経験などが語られた。座学や、アートプロジェクトの現場視察を通じ、参加者は自身の活動に活かすヒントを得ていた。



日程	講師	住民プロデューサー	会場	参加者数
第1回 7月21日(日)	小川希 Art Center Ongoing 代表 (3回共通)	兒玉絵美 (UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川) 「地域を巻き込むためのアートプロジェクト」	Atelier & Guest house スクリハウス (島田市)	11人
第2回 10月6日(日)		山森達也 (三島満願芸術祭) 「仲間づくりのためのアートプロジェクト」	ワーカースプリング三島クロケット (三島市)	9人
第3回 12月15日(日)		水越雅人 (認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ) 「継続していくためのアートプロジェクト」	たけし文化センター連尺町 (浜松市)	8人

アートプロジェクトのつくり方「きかくの場」



高齢になってからも独学でユニークな表現活動をする人々による芸術表現を「超老芸術」と名づけ、これまで発掘・紹介してきた。今年度は、県内で8人の超老芸術家を取材した他、信州アーツカウンシルとの共同企画により、長野県にある北アルプス展望美術館にて展覧会を開催した。

ギャラリートーク 「表現する人々と地域社会～超老芸術のまなざし」

日程 | 8月18日(日) 14:30-16:00
登壇者 | 野村 政之 (信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター)
武捨 和貴 (NPO法人リベルテ理事長)
榎野 展正 (アーツカウンシルしずおかチーフ・プログラムディレクター)



超老芸術展 in 池田町

日程 | 7月6日(土)～8月25日(日)
会場 | 北アルプス展望美術館(池田町立美術館、長野県)
来場者数 | 1,832人
主催 | 北アルプス展望美術館、アーツカウンシルしずおか、信州アーツカウンシル

※本展覧会は、2023年10月にグランシップで開催された「超老芸術展」の巡回展として企画されたもの。「超老芸術」および「超老芸術展」の詳細はこちらをご覧ください。>



超老芸術

LIST OF APPEARANCE

文化芸術と社会を結ぶアートマネジメントの専門家である専門スタッフに対し、多方面から講師や登壇の依頼があった。障害者アート展の審査員、大学での講義など依頼は多岐に渡り、年間を通じて、ArtS 専門スタッフならではの視点と知見が様々な場面で求められた。

派遣日/期間	件名	依頼者	出席者
5-3月	福祉教育副読本「ふむむ程度。」動画版制作ディレクション	社会福祉法人静岡県社会福祉協議会	鈴木一郎太
6/9	第15回日本プライマリ・ケア学会学術大会内「医療とアートの学校」トークセッションゲスト	医療とアートの学校	榎野展正
6/1 8/28 8/29	Art to You! 東北障がい者芸術世界展 IN SENDAI 2024 審査員	公益社団法人東北障がい者芸術支援機構	榎野展正
6/27	日本財団助成事業「障害者就労支援の理解促進及び就労マッチングの実施」ファンリテーター	NPO法人こころのまま	榎野展正
8/3	「関係するアート展 vol. 4」ギャラリートーク登壇	医療法人清明会	榎野展正
8/22	「未来を切り拓く Dream 授業」講師	静岡県	榎野展正
10/4 10/5	令和6年度障がい者芸術文化祭～愛顔ひろがる えひめの障がい者アート展～ 審査員	社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団	榎野展正
10/9	令和6年度第1回県・市町連携企画会議 オブザーバー	静岡県中部地域局	鈴木一郎太
10/7 3/25	山口源没後50年記念事業検討懇話会 委員	沼津市教育委員会	北本麻理
11/3	「三島満願芸術祭 2024」トークセッション 登壇	三島アートプロジェクト実行委員会	榎野展正
11/1	「かけがわ茶エンナーレ 2024 前夜祭」オープニングトーク 登壇	かけがわ茶エンナーレ実行委員会	鈴木一郎太
11/8	「TECH BEAT Shizuoka 2024 AFTER BURNER #1 / BIZ meets ARTs !」セミナー登壇	TECH BEAT Shizuoka 実行委員会	鈴木一郎太
11/13	沼津市教育委員会事務局文化振興課指定管理者選定委員会 委員	沼津市教育委員会	北本麻理
11/16	こころのままフェス 登壇	NPO 法人こころのまま	榎野展正
12/4 12/5	島根県障がい者アート作品展審査員	島根県障がい者文化芸術活動支援センター	榎野展正
12/4	学部科目「文化政策概論」ゲスト講師	静岡文化芸術大学	鈴木一郎太
12/5	総合文化政策学部「地域再生論」ゲスト講師	青山学院大学	立石沙織
12/13	高等学校芸術教科専門研修 講師	静岡県総合教育センター	鈴木一郎太
2/26	静岡県行政経営研究会 ファシリテート及びトークセッション登壇	静岡県	鈴木一郎太 若菜ひとみ
3/4	ふじのくに子ども芸術大学公募型講座 プレゼンテーション審査 審査員	静岡県	北本麻理
通年	irodori プロジェクトアドバイザー	irodori プロジェクト	榎野展正
通年	ふじのくに芸術祭 2024 企画委員	静岡県	榎野展正
通年	静岡県文化政策審議会委員	静岡県	榎野展正
通年	静岡県総合計画審議会委員	静岡県	加藤種男

ArtS や相談窓口の存在をより多くの方に周知するため、県内 5ヶ所に出向き、その地域で活動する団体と連携して出張相談窓口を開設した。

ArtS オープントーク 「ゲストの『モヤモヤ』聞いてみませんか？」

おしゃべりを起点に、ゲスト（2024年度「文化芸術による地域振興プログラム」実施団体）の活動内容や活動をする上でのモヤモヤをテーマに、ゆるく会話するオープントークを開催した。またオープントーク終了後は、来場者からの個別相談に対応した。

日程	ゲスト	会場
① 8月23日(金) 15:00～17:00	尾崎千里(海と山の文化市実行委員会)	凸凹食堂(牧之原市)
② 9月15日(日) 14:30～17:00	二宮奈緒子・KANくん(HAHAHANO.LABO)	とうふのかど(静岡市)
③ 10月27日(日) 16:00～19:00	岡部宇洋(かけがわ茶エンナーレ)	ポートカケガワ(掛川市)



オープントーク①



オープントーク②



オープントーク③

出張 ArtS 「アーツカウンシルしずおかと話してみませんか？」

ArtS の活動目的や事業内容の紹介をするとともに、周辺地域で活動する団体や個人の方々と、互いの活動紹介や悩み相談を中心にざっくばらんな意見交換を行った。

- ① 10月5日(土) 15:00～17:00
会場 | WITH A TREE (下田市)
連携団体 | TOWA 紫陽花プロジェクト実行委員会
(2023年度「文化芸術による地域振興プログラム」実施団体)



出張 ArtS ①

- ② 11月15日(金) 18:00～20:30
会場 | 小山町健康福祉会館 会議室 A (小山町)
連携団体 | Atelier Monte Piccolo (MAW2024ホスト)



出張 ArtS ②

「静岡茶のブランド戦略とアートプロジェクト」

旅の途中にたまたま立ち寄った静岡郊外の農家の縁側に座して、何種類のお茶をこちそうになり感懐したフォスコ・マラーニは、実に二時間もの間、お茶の歴史や栽培方法について聞きながら過ごしたという。1950年代のことで、写真家や文化人類学者という様々な顔を持つこのイタリア人は、日本の文化を研究し、イタリアとの交流に尽力した。

その50年代から首位を続けていた静岡県産の荒茶の生産量が、ついにその地位を明け渡した。けれども、これを静岡茶の新たなブランド化のチャンスだと感じた人もいなかったわけではないだろう。

なぜチャンスなのか。お茶は文化と同様に、量よりもはるかにその内実が重要だからである。お茶そのものの価値を高めることがブランド化の機会となる。

中国から伝来したお茶が広く一般庶民の間に普及するのには、文化の力が預かって大きかった。江戸時代の中頃になって、煎茶の製法を改革した商人の仕事と、煎茶を仲立ちに交流した文人と呼ばれた当時の文化人の仕事がつくづくことで、煎茶が飛躍的に普及した。

蕪村や池大雅、そして上田秋成に代表される、18

世紀の文人たちは、書画、俳諧、漢詩などともに煎茶を仲立ちにして交流を深めた。その中心にいたのが、黄檗山の禅僧であり、漢詩人だった売茶翁（ばいさおう）で、その名の通り、茶道具を担いで、町のあちらこちらで煎茶を売り歩いた。

つまりお茶はアートプロジェクトとして発展してきた歴史がある。アーツカウンシルしずおかでは、地域に密着した県民主体の創造的な活動であるアートプロジェクトを応援しており、その優れた事例を、本レポートで多数紹介しているが、地場産業の振興には、アートプロジェクトが寄与する可能性がある。経済と文化の結びつきから販路が拡大するという構造は、お茶の価値創造を目指すうえで、大きなヒントではないだろうか。

お茶は、幕末から明治にかけて、生糸に次ぐ重要な輸出品となることで、ブランド化に成功した。近年は、健康志向と日本食ブームにより、お茶の輸出が再び活性化している。この機を生かす必要がある。もちろん関係者の間では、そんなことは先刻承知で、お茶の価値を高めるために、すでにいくつもの取り組みがなされている。たとえば、お茶関係団

体のネットワークにより、「静岡茶の新たな価値の創造と需要の創出を支援する」ChaOi（チャオイ）プロジェクトも実績をあげている。

輸出には、異文化交流の側面がある。地域の文化とその国際交流は、アートプロジェクトの得意技であるから、お茶の輸出は、地域密着アートプロジェクトととりわけ親和性が高い。

その意味で興味深いアートプロジェクトが県内にいくつもある。たとえば、「かけがわ茶エンナーレ」である。各地の国際芸術祭にみられる「ビエンナーレ」という言葉をもじって、お茶の縁と掛けているのだ。そのコンセプトは「協働のまちづくり芸術祭」である。協働のまちづくりの重要な要素として、お茶と芸術祭が結びつく。

ヨーロッパがお茶の輸出先として着目されて、手づくり感やオーガニックなど、新たな静岡茶ブランド形成のための取り組みべき方向性がみ取れる。

さらなる輸出先の開拓について、アジアを視野に入れる必要もある。たとえば韓国。三島の「しゃぎり」は韓国とも交流しており、また、韓国からの視察団が「無人駅の芸術祭」を訪問している。韓国にはなぜかお茶の文化がない。コーヒーは飲むが、煎茶の習慣がないのである。だとすると、韓国は潜在的にお茶輸出市場の大きな可能性がある。

また、東南アジアには、インドネシアやマレーシ

アのように中産階級の台頭著しい国が少なくないが、この両国はいずれも宗教上の理由でお酒を忌避する人が多く、お茶文化を受け入れる可能性が高い。

お茶をテーマとするアーティストも現れてきている。TAKAGI KAORUは、島田市の杉本製茶と連携して、茶畑の中に「茶ノ木もぐり」という場を作り、好評だった。小さな試みだが、文化としてのお茶の価値に着目したところに大きなヒントがある。お茶生産者にとっては、下請け企業からの脱却、独自ブランドの確立こそが重要だからである。

アートプロジェクトは、社会の未来像を描くために、さまざまな仮説を立て、先駆的な実験を積み重ねてきた。そうした仮説と実験の積み重ねが、地域密着のアートプロジェクトである。

アートプロジェクトは、お茶に代表される地場産業の振興はもちろん、多文化共生、少子高齢社会への創造的取り組みなど、さまざまな領域との連携が可能であり、連携によって、思いもよらぬ視点を提供できる。アートプロジェクトが、さまざまな社会的課題に、創造的インパクトを提供する。そうした視点のもとに、アーツカウンシルはこれからもアートプロジェクトの推進を応援していきたい。

引き続きのご指導ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



加藤種男（静岡県文化財団副理事長 アーツカウンシルしずおかアーツカウンシル長）

アートプロジェクトのネットワーク化を掲げ、企業、行政、公益団体などを横断して文化政策を推進。芸術文化を専門家の独占から解放し、コミュニティの再生と新たな社会創造への源泉ととらえ、個人の表現にとどまらない、市民主体のプロジェクト型の協働表現を、「祝祭芸術」と名付けて展開している。

企業メセナを長らく担当し、あわせて、アートNPOの全国ネットワークの形成、横浜をはじめとする文化芸術創造都市の推進、東日本大震災の芸術文化による復興支援などにかかわってきた。京都造形芸術大学客員教授、東京都歴史文化財団エグゼクティブアドバイザーなどを歴任。著書『芸術文化の投資効果』『祝祭芸術』など。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

数字で見る 2024 年度のアーツカウンシルしずおか

「文化芸術による地域振興プログラム」

助成事業採択件数

【実施地域】

松崎町/2件 藤枝市/2件
 東伊豆町/1件 焼津市/1件
 熱海市/3件 牧之原市/1件
 三島市/3件 島田市/1件
 沼津市/1件 掛川市/1件
 富士市/2件 浜松市/4件
 静岡市/6件 湖西市/1件

29件

助成事業応募件数

108件

※上記件数は「文化芸術専門協働事業助成」「文化芸術活動広報支援助成」を含まない

マイクロ・アート・ワーケーション

MAW 旅人

37人

MAW ホスト

13団体

【旅人居住地】

東京都(14)、神奈川県(7)、石川県(2)、
 静岡県(2)、北海道、茨城県、群馬
 県、富山県、長野県、岐阜県、京都府、
 兵庫県、奈良県、和歌山県、大分県、
 沖縄県

MAW 旅人応募人数

119人

【実施地域】

湖西市、浜松市、吉田町、藤枝市、静岡市(2)、
 小山町、御殿場市、裾野市、沼津市(2)、清水町、
 伊豆の国市

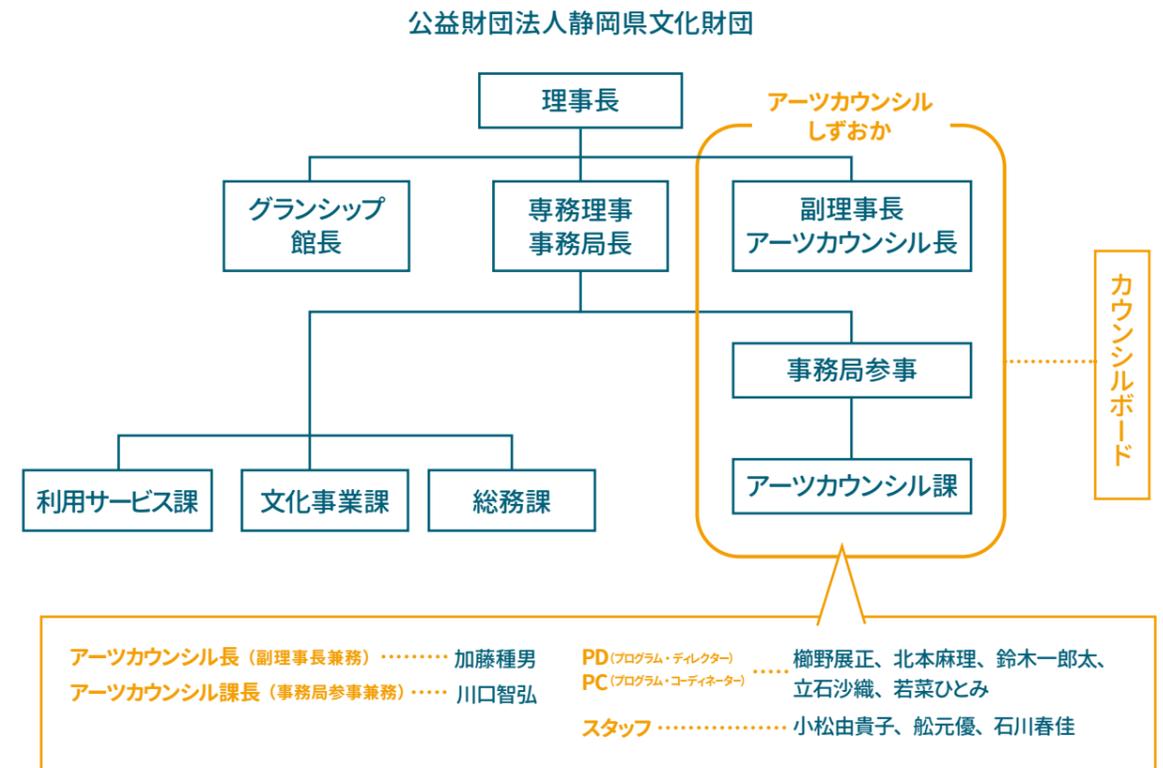
PD(プログラムディレクター)・PC(コーディネーター)出張件数

371件

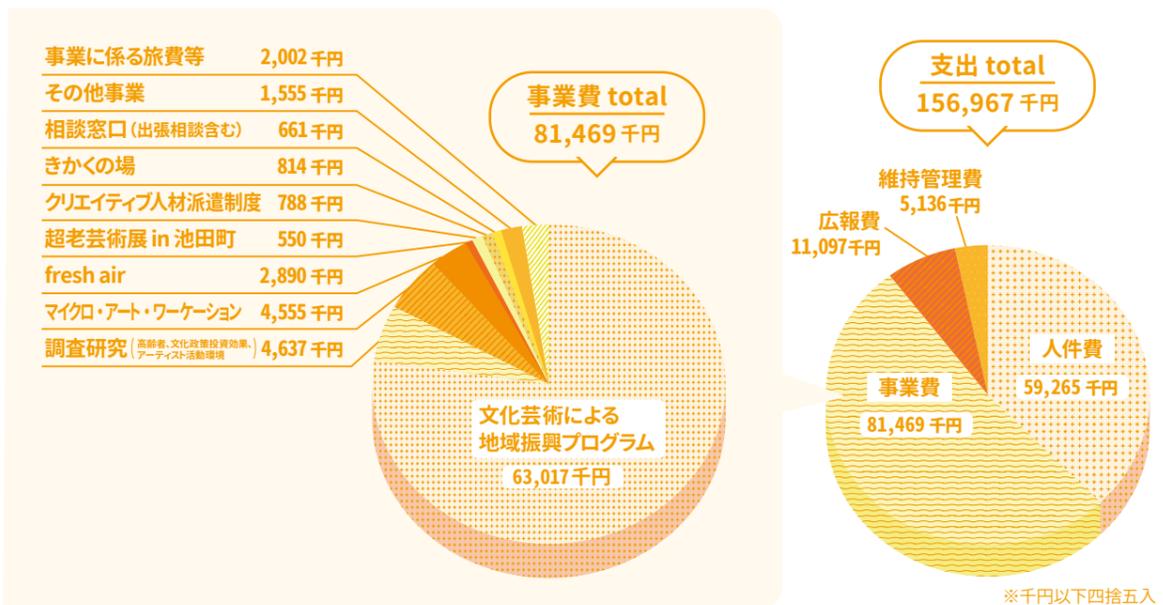
ArtS 関連の新聞記事掲載数

61件

体制図



2024 年度(令和6年度) 事業費



相談窓口



相談窓口 紹介ポストカード
デザイン: PILOTIS (浄見史都香)



ArtS オープントーク
ウェブパナー
デザイン: 加賀谷奏子



アートカウンシルしずおか ポケットカード
「TECH BEAT Shizuoka2024」 ArtS ブースにて配布
デザイン: PILOTIS (浄見史都香)
(イラスト: 桑田亜由子)



出張ArtS ウェブパナー
デザイン: 加賀谷奏子



きかくの場

チラシ、ウェブパナー
デザイン: 青木三枝



超老芸術展 in 池田町 チラシ

デザイン: デザインさいとう (齋藤洋平)



アートカウンシルしずおか
アニュアルレポート2023

デザイン: 桑田亜由子



アートカウンシルしずおか
A0版ポスター

(「TECH BEAT Shizuoka2024」 ArtS ブースに掲示)
デザイン: PILOTIS (浄見史都香)



「文化芸術による地域振興プログラム」
2024年度助成事業紹介リーフレット

デザイン: summit (齋藤智仁)



「文化芸術による地域振興プログラム」
2025年度助成事業募集チラシ

デザイン: PILOTIS (浄見史都香)



アートカウンシルしずおかの取り組みを周知するべく、フライヤー、ポスターといった紙媒体、ウェブサイト、SNSなどを通じて多彩な広報展開を行った。

「文化芸術による地域振興プログラム」
2024年度助成事業 A0版ポスター

デザイン: 桑田亜由子



クリエイティブ人材派遣制度
紹介チラシ

デザイン: アートカウンシルしずおか



マイクロ・アート・ワーケーション (MAW)

デザイン: 桑田亜由子



MAW2024ポスター



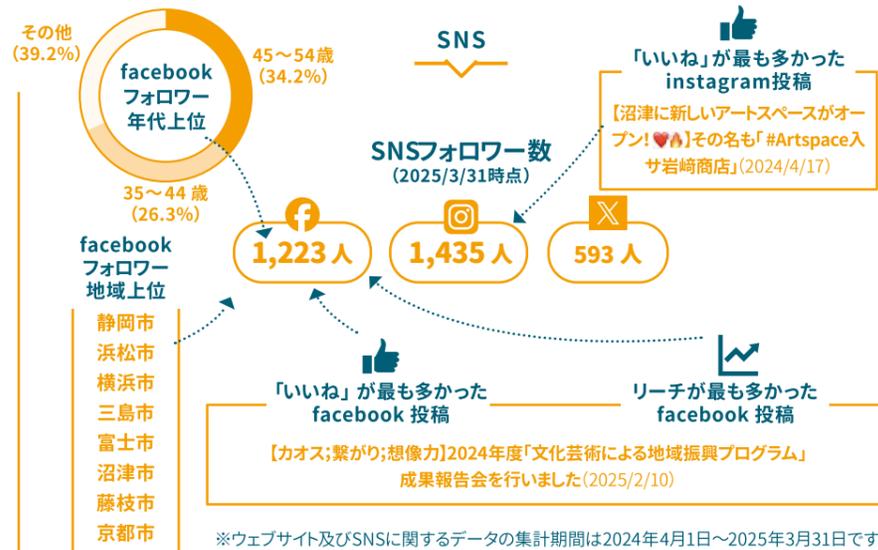
MAW2024ポストカード



ウェブサイト

年間総アクセス数
71,292
年間総ユニークアクセス数
49,052
最もアクセスの多かった月
5月
アクセスが最も多かった日
7月28日

※NHK Eテレ「no art, no life」で
本日照男氏(p51「調査研究」
参照)が取り上げられた日
最もよく見られたページ
「助成(支援)制度」



2024 年度アーツカウンシルしずおか アニュアルレポート

発行日 2025 年 6 月

発行者 アーツカウンシルしずおか
(公益財団法人静岡県文化財団)

〒422-8019

静岡県静岡市駿河区東静岡

二丁目3番1号 グランシップ1F

[TEL] 054-204-0059

[FAX] 054-288-8180

[mail] info@artscouncil-shizuoka.jp

[WEB] <https://artscouncil-shizuoka.jp>

編集 アーツカウンシルしずおか

デザイン 桑田亜由子

執筆 神尾知里 (p1~4、p36~39)
株式会社静岡編集舎 (p16)

撮影 菅原康太 (p1~4)
鈴木竜一郎 (p36~39)

印刷・製本 明和印刷株式会社

